

---

# 明日の仙台塩釜港を考える懇談会

---

## 第3回懇談会 説明資料



令和5年8月31日

宮城県土木部港湾課

# 全体目次

I. 第2回懇談会のふりかえり

II. 第3回懇談会の概要・進め方

## **III. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて**

III-1 検討の範囲（人流要素ツリー図）

III-2 県内沿岸市町の観光計画・要望事項

III-3 観光交流分野の現状と動向

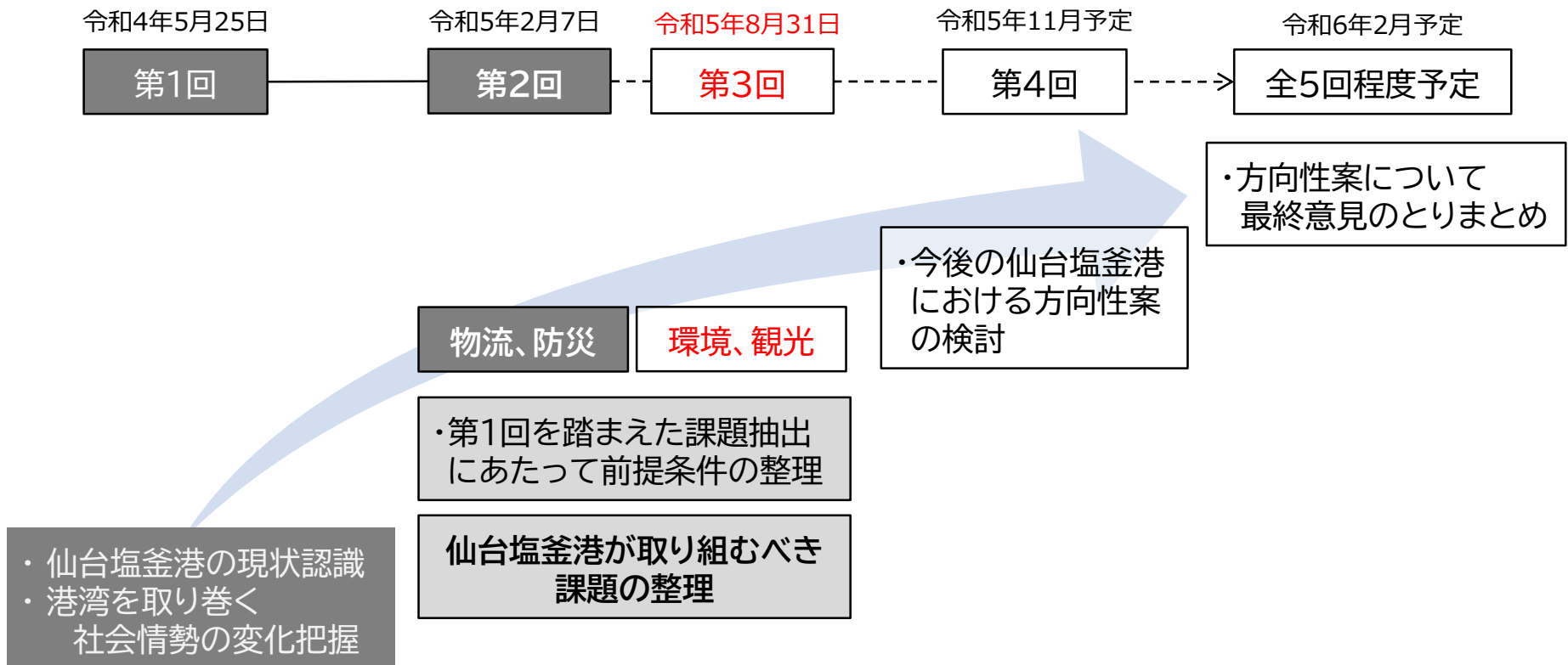
IV. 海域環境の保全について

V. 「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会」について ※進捗報告

VI. 次回開催について

# I. 第2回懇談会のふりかえり

- 令和4年5月から今年度内までに全5回、懇談会を開催し、仙台塩釜港の今後の有り方を検討していく。



# I. 第2回懇談会のふりかえり

- これまで2回開催した懇談会では、**第1回にて**、社会情勢の変化を踏まえた上で、**仙台塩釜港の課題を抽出するための論点を6項目に分類・整理**した。

## 仙台塩釜港の課題抽出のための論点6項目

1) モーダルシフトの進展など物流の変化を見据えた東北・宮城の港湾取扱貨物の増加に向けた取組

2) 人口減少社会における労働者不足に対応する業務効率化・生産性向上にかかるDX等の取組

3) 脱炭素社会の実現に向けた港湾におけるカーボンニュートラルへの取組

4) 東北・宮城のポテンシャルを踏まえた輸出の拡大・促進に向けた取組

5) ウィズコロナ・アフターコロナに向けた観光振興・交流人口の拡大への取組

6) 他港を含む大規模災害の発生を見据えた防災・減災対策や、BCPに向けた取組

# I. 第2回懇談会のふりかえり

- ・第2回懇談会では、**今後、仙台塩釜港が取り組むべき課題**について、**物流【論点1・2・4】**と、**防災にかかる事項【論点6】**を、①～⑤のとおり整理した。
- ・「物流」に関する課題は、①**高砂コンテナターミナルの機能強化**、②**ユニットロード貨物取扱機能の強化**、③**バルク貨物取扱機能の強化**の3つを、「防災」に関する課題は、④**国際戦略港湾の支援も視野に入れた広域的な防災港湾の体制強化**、⑤**海面処分用地の確保検討**の各検討の2つをそれぞれ抽出した。

論点 ① モーダルシフトの進展など物流の変化を見据えた東北・宮城の港湾取扱貨物の増加に向けた取組

論点 ② 人口減少社会における労働者不足に対応する業務効率化・生産性向上にかかるDX等の取組

論点 ④ 東北・宮城のポテンシャルを踏まえた輸出の拡大・促進に向けた取組

## 課題①高砂コンテナターミナルの機能強化

- ・ 貨物量増加見込み、船舶の大型化、港湾労働者不足に対応するDXへの取組、輸出の促進対応、北米ダイレクト航路の再開や、経済発展が見込まれる東南アジアダイレクト航路の誘致などを見据え、**集荷促進とあわせて今後の高砂コンテナターミナルの機能強化について検討が必要となる。**

## 課題②ユニットロード貨物取扱機能の強化

- ・ 貨物量増加見込み、船舶の大型化及び、新たな貨物に伴うバース混雑、今後のモーダルシフト需要拡大へ対応する、バルク混在の岸壁・ふ頭の使い方見直しなどの再編を踏まえ、**集荷促進とあわせてユニットロード貨物取扱機能の強化について検討が必要となる。**

## 課題③バルク貨物取扱機能の強化

- ・ 石巻港区は、広域基幹産業の物流コストの低減に寄与する、飼料穀物やバイオマス発電燃料の輸入調達などの大型貨物船による大量輸送へ対応するため、釜・雲雀野地区の効率的な利活用も含めた**バルク貨物取扱機能の強化について検討が必要となる。**
- ・ 塩釜港区は、地域基幹産業の物流コストを低減するため、仙台港区と塩釜港間でシフト等による効率的なふ頭利用や計画水深の確保を含めた**バルク貨物取扱機能の強化について検討が必要となる。**

論点 ⑥ 他港を含む大規模災害の発生を見据えた防災・減災対策や、BCPIに向けた取組

## 課題④国際戦略港湾の支援も視野に入れた広域的な防災港湾の体制強化

- ・ 首都圏など他地域の大規模災害時における機能不全の回避や早期復旧に資するため、仙台塩釜港の地理的メリット・海上物流機能を最大限活用し、京浜港に就航する北米西岸航路の代替輸送機能確保などの、**国際戦略港湾の支援を視野に入れた広域的な防災港湾の体制強化などについて検討が必要となる。**

## 課題⑤海面処分用地の確保検討

- ・ 災害時の廃棄物受け入れなど防災機能向上に資する海面処分用地について、東日本大震災で災害廃棄物の埋立処分した実績や、既定計画箇所に着手している状況及び浚渫・他事業残土の受け入れニーズを踏まえ、**海面処分用地の確保に向けた検討が必要となる。**

## Ⅱ. 第3回懇談会の概要・進め方

### 第3回懇談会の検討テーマ

論点

5)

ウィズコロナ・アフターコロナに向けた  
観光振興・交流人口の拡大への取組

#### 1-1. 「人流」に関する基礎的情報の共有

- 人流増加の可能性に関する検討の範囲について（人流ツリー図）
- 県内沿岸市町の観光計画・要望事項について
- 観光交流分野の現状と動向について（個別分析）

#### 1-2. 臨港地区の人流増加に向けた取組みについて意見交換（各港区・仙台塩釜港全体）

論点

3)

脱炭素社会の実現に向けた  
港湾におけるカーボンニュートラルへの取組

#### 2. 「海域環境の保全」に関する情報共有・意見交換

#### 3. 「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会」における検討内容の報告

今回の意見については、第4回目までに課題として事務局で整理を行う。

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## Ⅲ-1 検討の範囲（人流要素ツリー図）

**論点**  
**5)** ウィズコロナ・アフターコロナに向けた観光振興・交流人口の拡大への取組

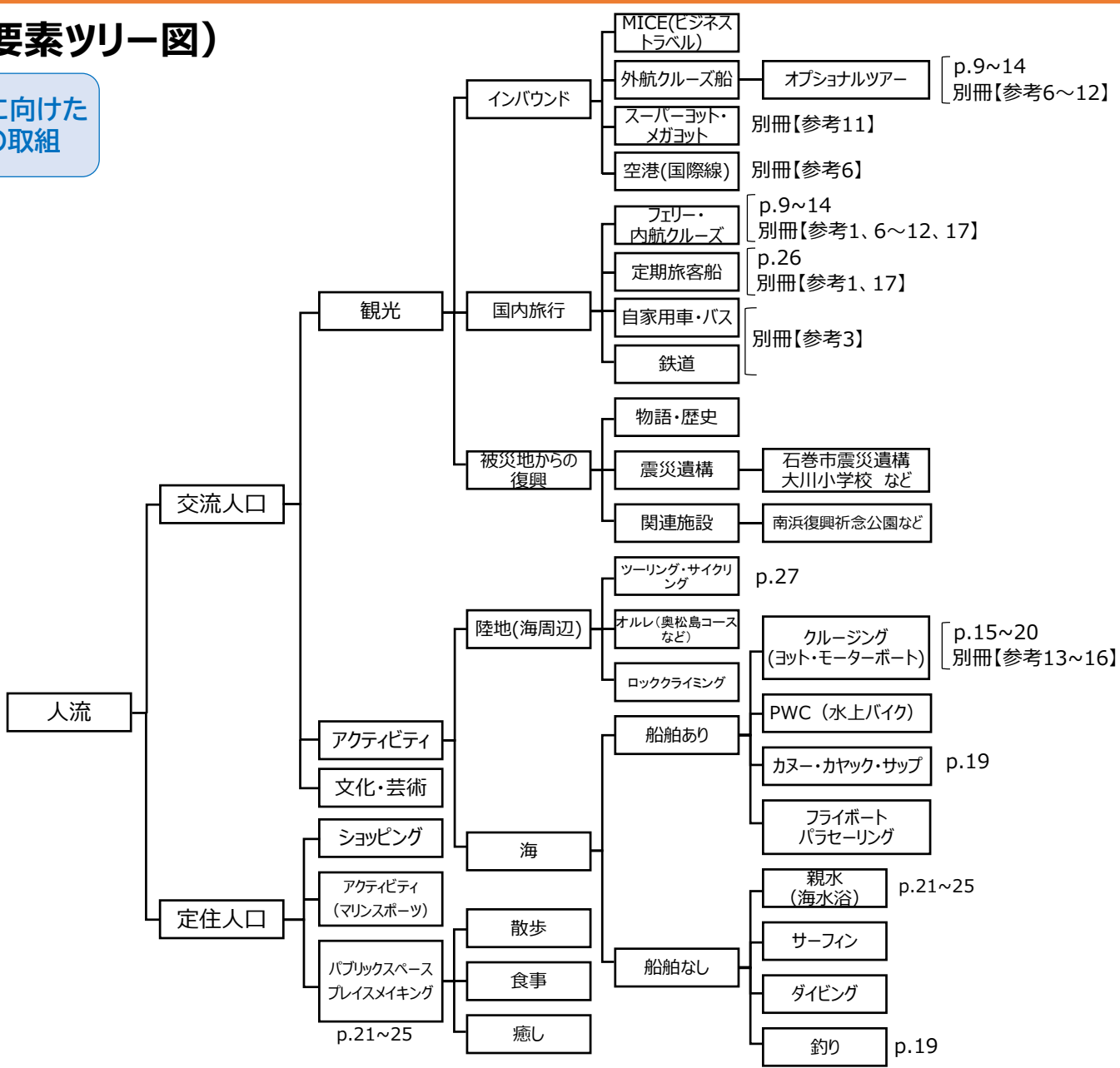
・「人流」を、「交流人口」と「定住人口」とに大別した。

➢交流人口：地域外からの旅行者や短期滞在者による人口  
 ➢定住人口：その土地に居住する人口

・さらに、行動特性を踏まえ、以下の要素に分類した。  
 交流人口 ⇒ 観光、アクティビティ  
 定住人口 ⇒ ショッピング、アクティビティ、公共空間

・県内の観光特性を踏まえた場合、観光やアクティビティ(遊び・体験)を構成する対象・アイテムは、右図に示すものが想定される。

➡これら観光交流アイテムを活用した、臨海部への**交流人口の拡大**、**定住人口への憩いの場の提供**に向けた検討を行う。



➡次ページに各市町の観光にかかる地域特性についてヒアリングした内容を整理した

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## 仙台塩釜港全体について(港区間の連携・にぎわいの相乗効果)

【仙台塩釜港背後市町の観光特性】

各市町の観光振興にかかる戦略プラン等をヒアリングした内容について、前ページに記載の人流要素ツリー図で細別した構成項目ごとに合致する内容を整理した。

○：観光振興上の重点機能 ×：現有機能なしor機能有するも活用意向なし △：観光振興上の重点機能ではないが活用意向あり

観光・交流アイテム	仙台港区		塩釜港区		松島港区	石巻港区		備考	
	仙台市	多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	松島町	東松島市	石巻市		
インバウンド	MICE(国際会議,展示会,イベント等)	○	×	×	×	×	×	仙台市以外は施設が無い	
	外航クルーズ船口	△	△	△	×	△	△		
	スーパーヨット・メガヨット	×	×	×	×	×	×		
	空港(国際線)	×	×	×	×	×	×		
国内旅行	フェリー・内航クルーズ	△	△	△	×	△	△		
	定期旅客船	×	×	○	×	○	○		
	自家用車・バス	○	×	×	○	○	×		
	鉄道	○	△	×	×	○	×		
被災地からの復興 (学生向け教育旅行)	物語・歴史	△	△	△	△	△	△	全般的に学生向けの教育旅行を視野に入れている	
	震災遺構	△	△	△	△	△	△		
	関連施設	△	△	△	△	△	△		
アクティビティ 陸地(海周辺)	ツーリング・サイクリング	○	○	×	△	×	○		
	オルレ・トレイル	×	△	×	×	×	○		
	クライミング	×	×	×	×	×	×		
アクティビティ(海)	クルージング(ヨット・モーターボート)	×	×	△	△	×	△	東松島市は係留施設整備希望	
	水上バイク	×	×	×	×	×	×		
	カヌー・カヤック・サップ	×	×	△	△	×	×		漁業者との利用調整が課題
	フライボート・バラセーリング	×	×	×	×	×	×		
	親水(海水浴)	×	×	×	×	×	×		砂浜はあるが利用希望なし
	サーフィン	△	×	×	×	×	×		
	ダイビング	×	×	×	×	×	×		養殖エリアのため実施できない
パブリックスペース /プレイスメイキング	散歩	×	×	△	△	△	×		
	食事	×	×	○	○	×	×		
	癒し	×	×	×	△	×	×		
全体傾向	沿岸部に係る計画はない。貞山運河に係る記載あり	内陸中心の計画のため、海側との関連はない	観光振興の軸となる4つの観光拠点の内2つが「ベイエリアとマリンゲート地区」と「浦戸諸島」	海とのつながりや景観を生かした日帰りによる交流人口の増	宿泊は国内重視(旅行者割合 国内9:国外1)。旅客船を重視し、日よけ屋根が欲しい	松島との遊覧船連携、持続可能な観光地の国際認証「世界の持続可能な観光地TOP100選」	地域資源を活かした交流人口の拡大を図り、石巻港に寄港する大型客船や仙台空港からのインバウンドの誘客を推進する		



# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## Ⅲ-2 県内沿岸市町の観光計画・要望事項

- ・仙台塩釜港にかかる沿岸市町の観光・人流活性化に関連する施策を整理した。
- ・特に、塩釜港区・松島港区にかかる塩竈市・七ヶ浜町・松島町について、臨海部の人流活性化に関連する記載が多い。

港区	市町	観光に関連する政策・計画・戦略・プラン名	策定時期	対象期間	臨海部の人流活性化・観光に関連する記載	備考(参考情報)
仙台港区	仙台市	仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024(2023年度版)	2022.3	2022～2024	仙台港区周辺にかかる記載は特になし	仙台港区外だが、エリア別ブランディングの東部において、貞山運河活用の記載あり。
	多賀城市	第二次多賀城市まち・ひと・しごと創生総合戦略	2021.2	2021～2025	内陸部中心で海側は特になし	施策5-3の施策を取り巻く状況内に、みちのく潮風トレイルの記載あり。
塩釜港区	塩竈市	塩竈市振興観光ビジョン	2018.3	2018～2025	○ 塩竈市の観光振興の軸となる4つの観光拠点の内の2つが「ベイエリアとマリンゲート地区」と「浦戸諸島」。 本塩釜駅から東に展開するベイエリアとマリンゲート地区は、広域周遊型の松島湾観光の起点としての役割に加えて、ベイエリアの緑地や公園とマリンゲートを、観光客が海辺の景観を楽しめるエリアとして位置付けます。 また、対岸の市場地区と結ぶシャトル船などの二次交通で連携して、観光客が海に触れて、水産物を買ったり、食事を楽しんだりする観光エリアとします。	○ コンセプト:千年の歴史と美食にであう港町・塩竈
	七ヶ浜町	七ヶ浜町長期総合計画[2022-2031]	2022.3	2022～2031	○ ～うみ～基本目標2活気を創造していくまちづくり レジャー、マリンスポーツ、体験型観光、地域資源の魅力を積極的に発信するなど、関係人口の増加による活性化を促進	基本方針うみ(心いやされるまち)癒しの空間を共感・活気を創造していくまちづくり
松島港区	松島町	松島町観光振興計画	2013.3	2013～2022	○ セールスコンセプトは、①多島海景観をまるで居間や縁側から庭を眺めるようにみることができる、②プライベート空間と公共空間の融合した空間が醸し出されている、③松島の人々の日常と、観光地としての非日常が融合しているという3つの特徴を上手に演出して、来訪者も町民も「誰もが心安らぎ癒される第三の空間」を創出し、松島全体が公園のようなパブリックスペースが充実した観光地として売り出していくことである	美しい景観、美しいおもてなし、美しいくらし
石巻港区	東松島市	東松島市観光ビジョン	2015.3	2015～2024	石巻港区大曲地区にかかる観光の記載は特になし。	奥松島、宮戸の観光遊覧船(嵯峨溪遊覧船)の記載あり。
	石巻市	石巻市産業振興計画	2021.11	2021～2030	石巻港区にかかる観光の記載は特になし。 (ただし、大型客船寄港に関する記載あり)	産業振興計画の内、6つの施策に、「地域資源を活かした観光事業の振興」。豊かな自然や多彩な食材、文化、イベント、伝統産業など地域の多彩な資源を活かした交流人口の拡大を図り、石巻港に寄港する大型客船や仙台空港からのインバウンドの誘客を推進する。

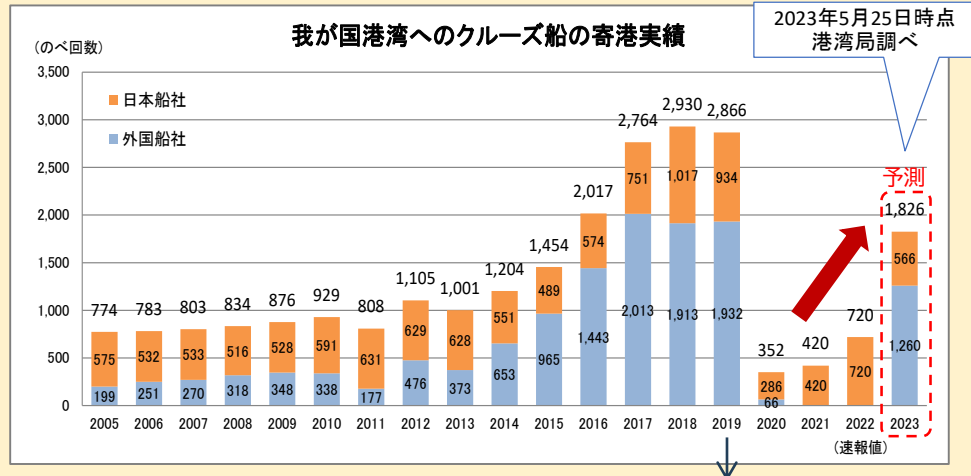
# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

### (1) 国内外クルーズ船の動向

### ●全国及び東北管内港湾のクルーズ船寄港実績と予定

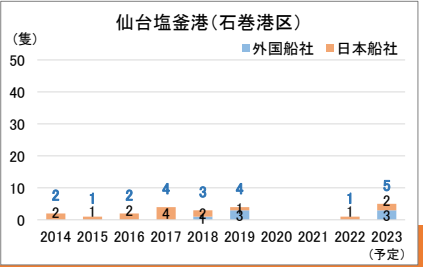
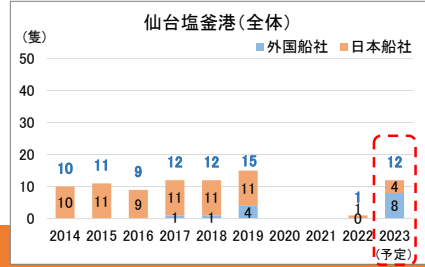
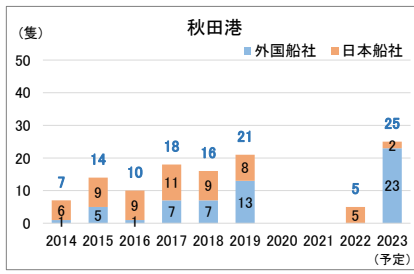
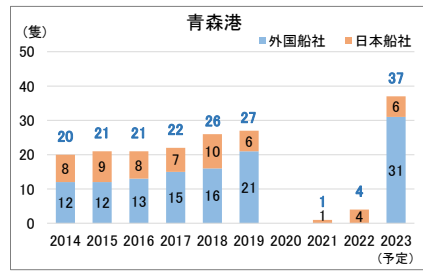
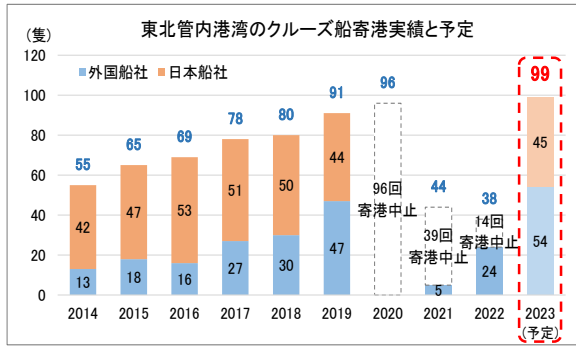
- ・2022年の我が国へのクルーズ船寄港回数は720回（全て日本船社）とコロナ禍において徐々に回復。
- ・2023年3月から外国船社による国際クルーズの受入が再開され、**2023年の寄港回数は1,826回**（うち外国船社1,260回）が予定されている。
- ・東北6県においては、2023年は**過去最多の99回**が寄港予定。最多は青森港の37回で、次いで秋田港の25回、**仙台塩釜港は3番目の12回**（仙台港区7回、石巻港区5回）が予定されている。
- ・8月3日には県内初となる17万GT級の大型クルーズ船「MSCベリッシマ」が石巻港区雲雀野ふ頭に入港した。



2019年実績	那覇港	博多港	横浜港
寄港回数上位3港	260回	229回	188回

※国土交通省港湾局産業港湾課資料より作成

### 東北管内クルーズ船寄港港湾



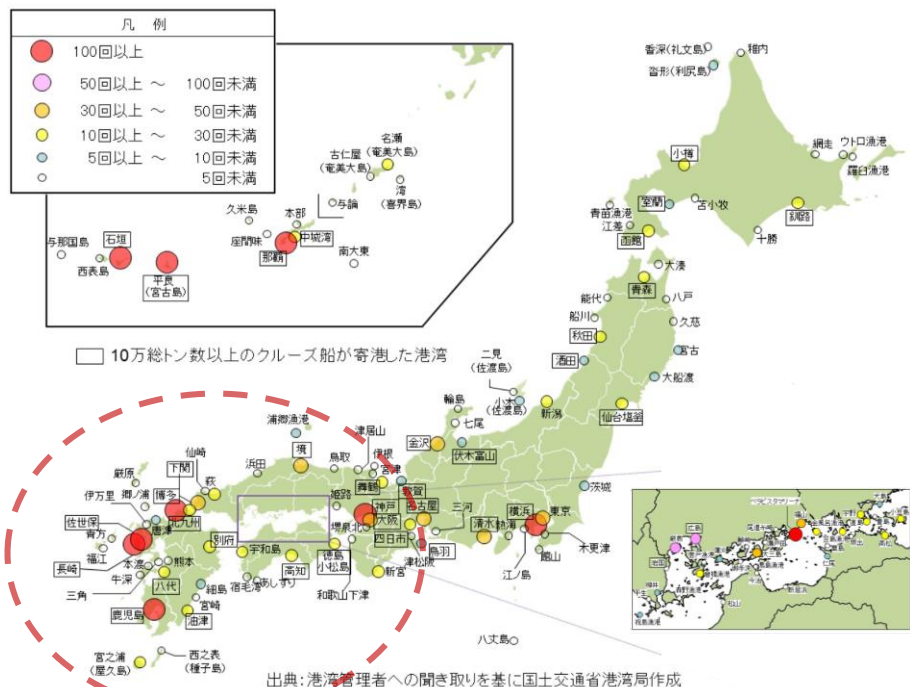
■クルーズ船が寄港する地域の特性について（我が国港湾へのクルーズ船寄港回数が過去最多であった2018年実績）

- ・2018年における港湾別の寄港状況を見ると、第1位が博多港の279回、第2位が那覇港の243回、第3位が長崎港の220回、第4位が横浜港の168回、第5位が平良港の143回となっており、**九州・沖縄地域を中心とする西日本地域への寄港回数が多**い。
- ・このような西高東低型の要因としては、①**中国や韓国、台湾を起点としたショートクルーズ（3～4泊）**の場合は、行程的に西日本を寄港するローテーションになる（長期休暇が取りづらい中国人にはショートクルーズが人気）ことや、②外国船による日本発着クルーズの場合、海外の港に一度寄港しなければならない「**カボタージュ規制**」があり、**日本から最も近い韓国・釜山港に西日本港湾から寄港しやすい**こと、③**国際旅客船拠点形成港湾が8港**（横浜、清水、下関、佐世保、八代、那覇、本部、平良）指定され、西日本地域の港湾が多いことなどが考えられる。

■クルーズ船が寄港する次期・季節の特性について（我が国港湾へのクルーズ船寄港回数が過去最多であった2018年実績）

- ・東北地方の港湾では、**3月～11月までの期間にクルーズ船が寄港**している。
- ・寄港月の傾向としては、東北地方で**桜が開花している4～5月頃と祭り等のイベントが開催される8～9月の寄港回数が多**い。

(寄港する地域)国内港湾へ寄港したクルーズ船の実績



(寄港する季節)東北港湾へ寄港したクルーズ船の月別実績



東北港湾の月別クルーズ寄港回数

港湾名	寄港回数										
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	
① 青森港		5	7	4		7	1	2	1	27	
② 大湊港							1			1	
③ 八戸港			1					2		3	
④ 久慈港				1		2				3	
⑤ 宮古港		1	1		1		2			5	
⑥ 大船渡港				1				1		2	
⑦ 仙台塩釜港	2	3	2		3	2	2		1	15	
⑧ 能代港				3				1		4	
⑨ 船川港						1				1	
⑩ 秋田港	2	5			2	5	5	2		21	
⑪ 酒田港	1	1	1	1	2	1	2			8	
⑫ 小名浜港		1								1	
合計	2	13	19	8	10	16	17	4	2	91	

資料：「2019年に東北港湾へ寄港したクルーズ船実績」国土交通省東北地方整備局

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

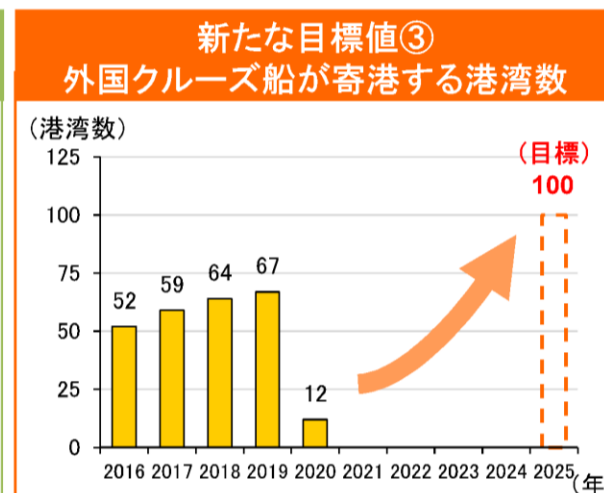
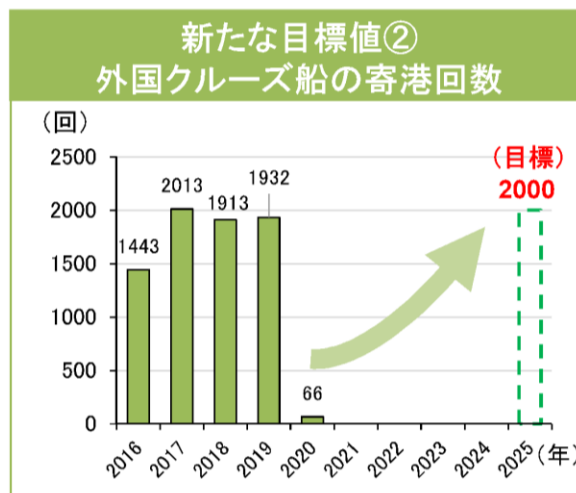
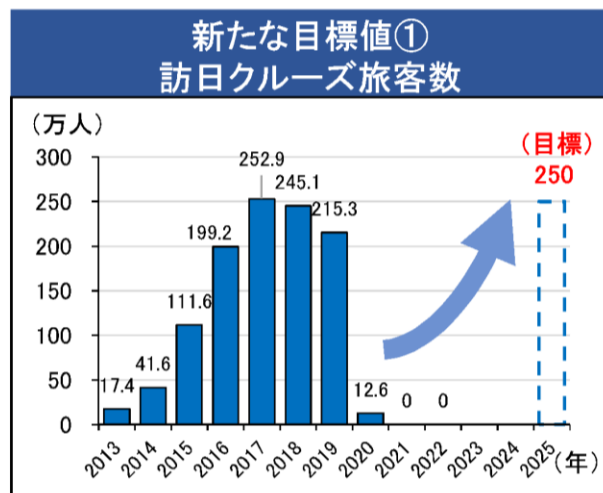
## (1) 国内外クルーズ船の動向

## ●クルーズ再興に向けた将来動向

Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

・「観光立国推進基本計画」(令和5年3月31日閣議決定)では、日本におけるクルーズ再興に向けた新たな目標値が設定され、訪日クルーズの本格回復への取り組みを進めていくこととしている。

- ①訪日クルーズ旅客数 ➡ **令和7年**に、コロナ前ピーク水準の**250万人**
- ②外国クルーズ船の寄港回数 ➡ **令和7年**に、コロナ前ピーク水準の**2,000回**
- ③外国クルーズ船が寄港する港湾数 ➡ **令和7年**に、コロナ前ピーク水準の67港を上回る**100港**



※「クルーズの最近の動向について(令和5年6月22日)国土交通省港湾局」より抜粋

## 【世界のクルーズ市場の将来動向】

- ✓ クルーズライン国際協会 (CLIA) が発表した「クルーズ船業界現状報告2023」によると、**2023年の世界のクルーズ旅客数**は、2019年水準 (2,970万人) の106%に相当する、**3,150万人**へと回復が見込まれている。さらに、**2027年までには3,950万人**に達するものと予測されている。
- ✓ クルーズ船の乗船収容能力も毎年増加し、**2028年には2022年比19%増の74.6万床**以上になるものと予測されている。
- ✓ さらに、現在で**2028年までに44隻の新造船**の就航が予定されている。

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (1) 国内外クルーズ船の動向

### ●国内外クルーズ船に対する仙台塩釜港対応岸壁のスペック評価

・現在国内外には大小**296隻**※のクルーズ船が就航している。安全な接岸受入には、船舶諸元に対応した**所要の航路・泊地・岸壁の水深と岸壁延長**を満たすほか、水域（航路幅、航路水深、回頭水域）の確保などの条件も加わる。

（例えば、回頭水域でみると、**全長350m以上のクルーズ船は接岸不可**となる。）

・下図には、必要岸壁水深と必要岸壁延長を条件とした各港区での受入カバー比率(対応可能隻数÷296隻)の目安を示しており、**仙台港区は全隻数の37%、塩釜港区は19%、石巻港区は31%**となっている。

**(仙台港区と石巻港区では2バース利用で100%)**

・なお、クルーズ船の寄港には、直接接岸のほか、**沖合停泊で通船(地元定期便等)やテンドーボートを利用するケース**があり、受入スペックが小規模な地方港湾や漁港においても、沖合停泊の入港実績は見られる。

※「クルーズ客船データブック2022・2023」より

### 仙台塩釜港の港別クルーズ船対応最大岸壁

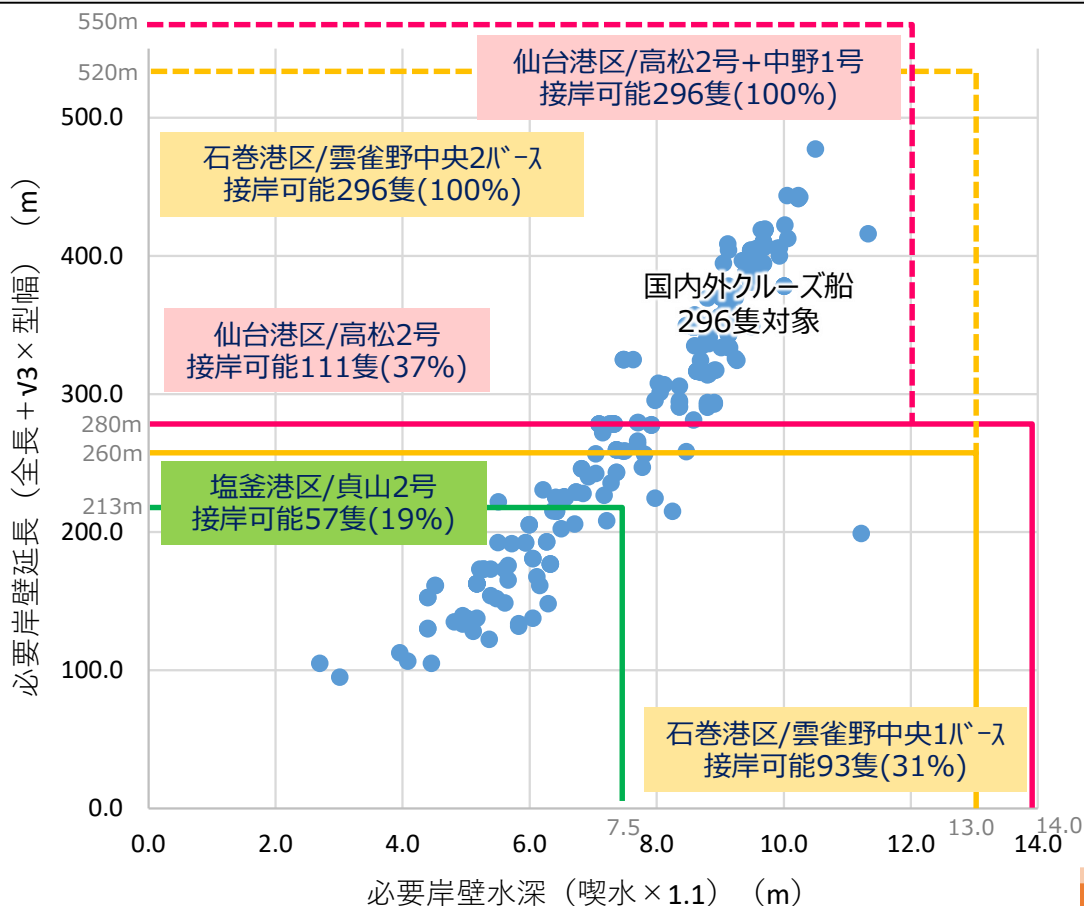
港区	水深 (m)	岸壁長 (m)	対応岸壁
仙台港区	-14.0	280	高松ふ頭2号岸壁
塩釜港区	-7.5	213	貞山ふ頭2号岸壁
石巻港区	-13.0	260	雲雀野中央埠頭
(参考) 松島港区	-3.0	80	松島海岸通り浮棧橋 (旅客船着岸棧橋として利用)

### 「にっぽん丸」 沖合停泊事例

テンドーボートに乗り換え上陸  
(沖縄県久米島儀間漁港)



### 沖合に停泊するにっぽん丸 (山口県萩港)



# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (1) 国内外クルーズ船の動向

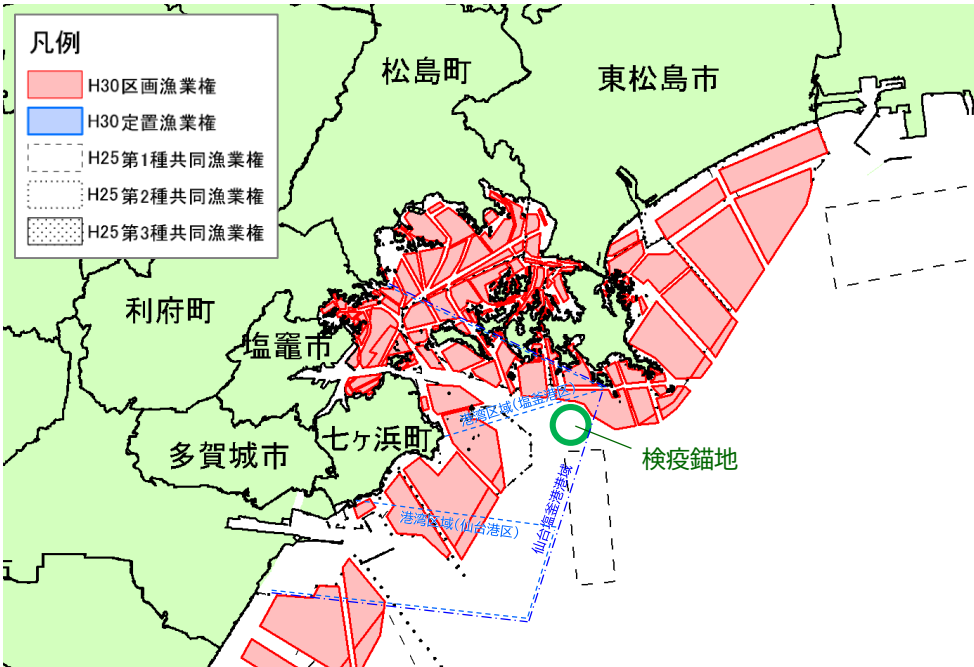
### ●クルーズ船から小型船舶乗り換え検討

#### ■クルーズ船の沖合停泊水域について

- ・塩釜港区及び松島港区内、周辺海域においては、区画漁業権や共同漁業権が指定されている。
- ・また、沖合約10km付近の水域（仙台塩釜港港域内の漁業権以外の水域）には、塩釜区の検疫錨地が指定されている。
- ・塩釜港区及び松島港区の水域は漁業権が広く指定され、大型船舶の停泊が可能なエリアは、陸から片道10km程度離れた水域に限定される。（下記検疫錨地の周辺水域となる）
- ・なお、他港における小型船舶乗り換えによる航行距離は、1.5km程度



松島観光棧橋～塩釜区検疫錨地の距離



※宮城県水産業振興課HP 宮城県における漁業免許の状況 漁場連絡図 全体図を加工

塩釜港区・松島港区内及び周辺海域における漁業権指定状況



※日本水先人会連合会HP 仙台湾水先区より抜粋

仙台湾水先区

水先区域、港域、検疫錨地、水先人の乗船場所の略図

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (1) 国内外クルーズ船の動向

### ●まとめ

Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

#### (世界・国内・東北)

- 国内港湾へのクルーズ船寄港見込み(2023年)は1,826回。2019年実績は那覇港260回、博多港229回、横浜港188回。
- 東北港湾への寄港見込み(2023年)は99回で、青森港37回、秋田港23回、仙台塩釜港12回(仙台7、石巻5)。
- 国の「観光立国推進基本計画」における目標は、コロナ前ピーク水準の旅客数や寄港回数を目指しており、クルーズライン国際協会(CLIA)による旅客数やクルーズ船収容能力の見通しは、右肩上がりを見込んでいる。


#### (寄港する地域と季節の特性)

- 寄港する地域は西日本が多く、中国や韓国、台湾からのショートクルーズや、カボタージュ規制の影響が考えられる。
- 寄港する季節は、東北は3～11月の期間で、特に桜が開花する5月、祭り等のイベントが開催される8～9月が多い。

 **クルーズ船の需要は拡大する見込みであり、東北地域は地理的不利等があるものの、祭り・イベントを活かした受け入れを推進している。**

#### (仙台塩釜港)

- 岸壁の延長と水深によって、クルーズ船寄港に必要なスペックを満たすかどうか、港区ごとに目安を作成。仙台と石巻港区は、2バース連続で使用することにより、岸壁のスペックは満足する見込み。塩釜港区は、比較的小型な一部クルーズ船について、岸壁のスペックは満足する見込み。
- また、上記条件に加え、港内でクルーズ船が回頭するための水域(航路幅、航路水深、回頭水域)の確保が、受入スペックの条件となる。
- 沖合停泊により小型船舶へ乗り換えする場合の航行距離は、他港では1.5km程度の実績がある一方、塩釜港区及び松島港区の水域は漁業権が広く設定されており、10km程度離れた水域に限定される。
- 仙台塩釜港は、クルーズ船専用岸壁が無く、既存の貨物荷役岸壁・背後ヤードの調整をしながらのクルーズ受け入れを行っている。

 **岸壁は、仙台・石巻港区において既存施設で一定の受入スペックを満たす見込みであり、塩釜は小型船における可能性を有する。ただし、どの港区も水域の範囲・水深確保が必要となるとともに、既存の貨物荷役との調整が、都度、必要となる。**

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

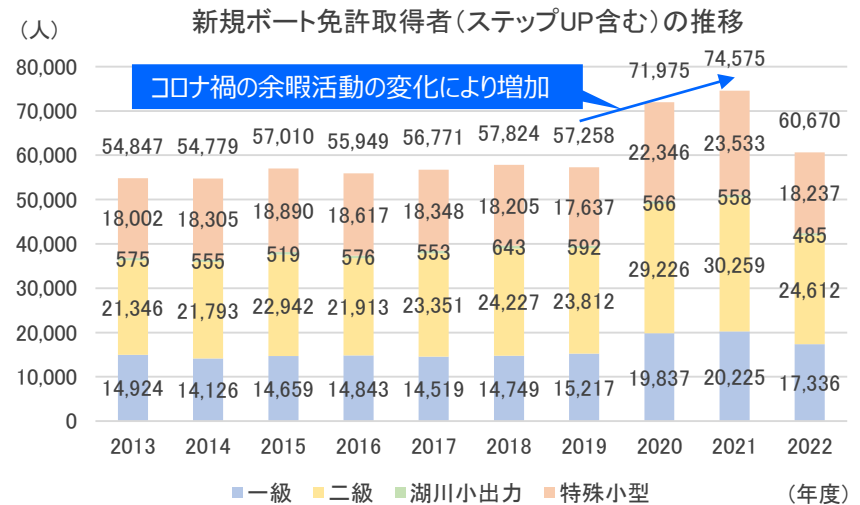
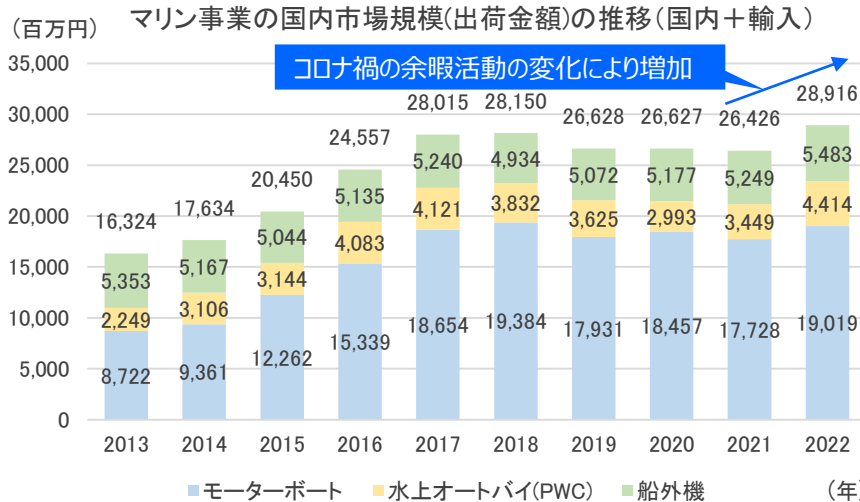
## (2) マリンレジャーの動向

### ●国内プレジャーボートの市場動向

### Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

- マリン事業の**国内市場規模（国内・輸入の出荷金額）**は右肩上がりで推移しており、2013年から2022年までの**10年間で約1.8倍の約290億円へと増加**している。
- コロナ禍における**ライフスタイル変化とアウトドア志向の高まり**により、**2020年・2021年の新規ボート免許取得者数は例年の約2割増加**する結果となっている。

※マリン事業とは、舟艇、舟艇用機関及び舟艇関連部品（輸入品及び中古品を含む）の製造業、整備業及び販売業並びに関連する事業（日本マリン事業協会HPより）

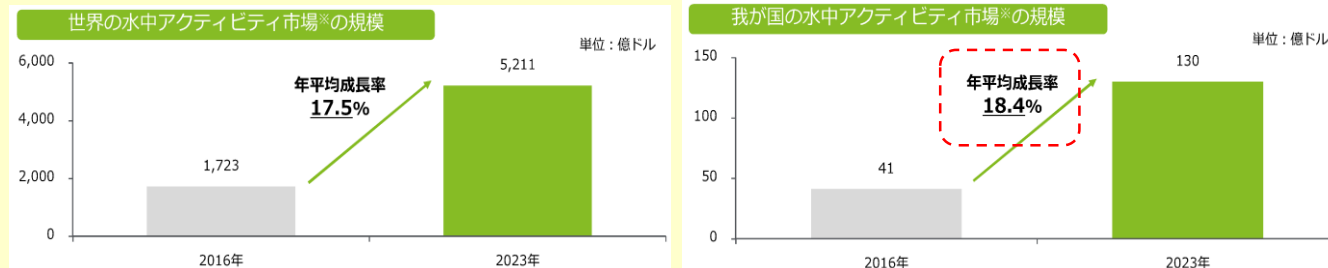


資料：「令和4年度マリン業界の出荷及び市場動向 令和5年6月（一般社団法人 日本マリン事業協会）」より作成

- 世界の水中アクティビティ市場は2016年から2023年の間に約3,488億ドルの拡大が見込まれている。
- また、**我が国の水中アクティビティ市場は、世界を上回るペースでの成長**が予測されている。

※水中アクティビティ：ボートサファリ、キャニオニング、カヤック、スキューバダイビング、シュノーケリング、サーフィン、ラフティング等

### 世界及び我が国の水中アクティビティ市場の動向



※「ビーチの観光資源としての活性化に向けたナレッジ集（国土交通省観光庁観光資源課）H31.3」より抜粋

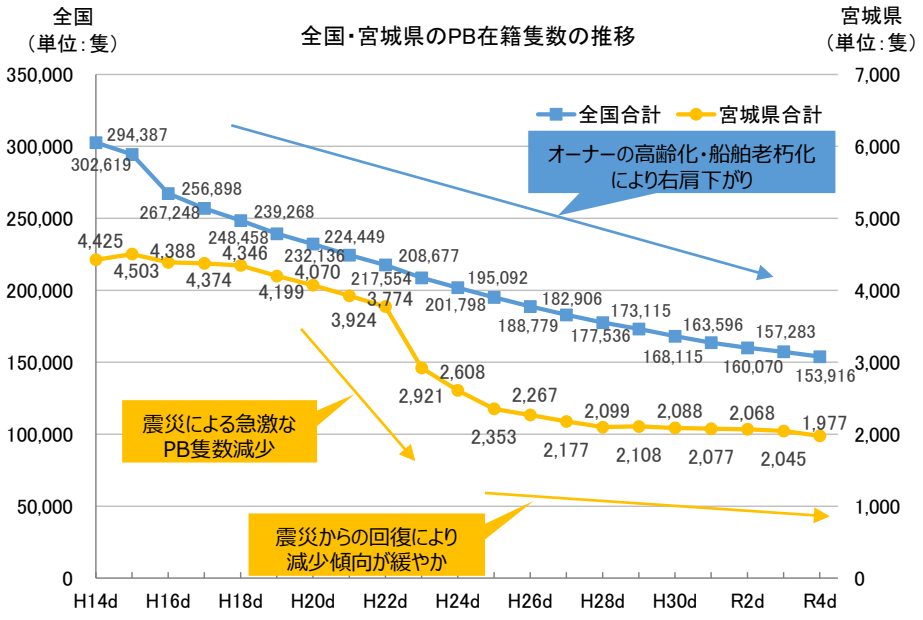


# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

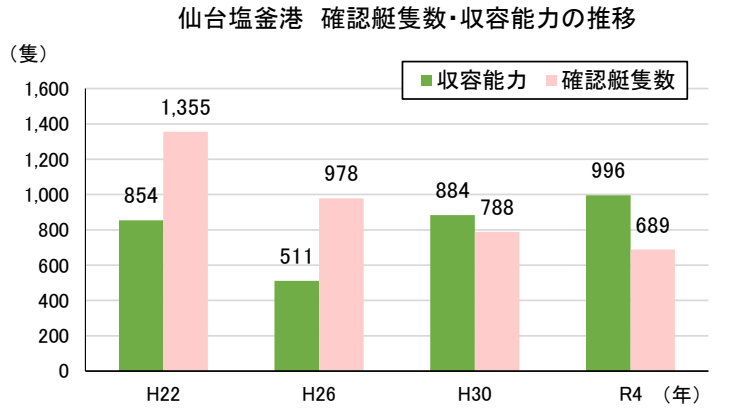
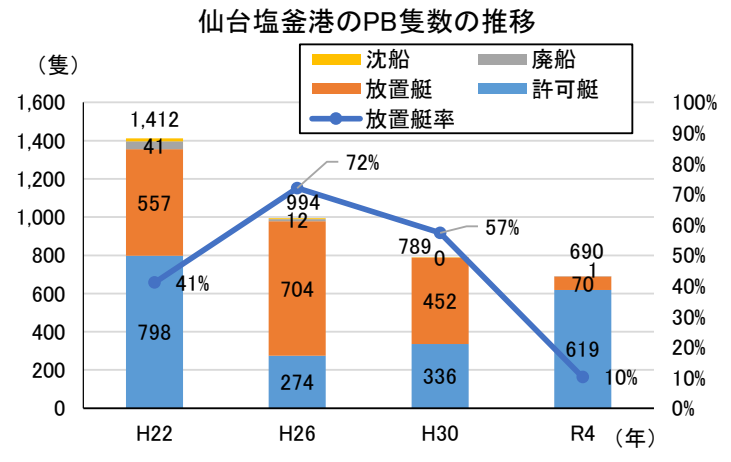
## (2) マリンレジャーの動向

### ●全国・宮城県のPB在籍隻数の推移/仙台塩釜港のPB隻数の収容能力の推移

- ・プレジャーボートの在籍隻数は**全国・宮城県いずれも右肩下がり**で減少しており、平成10年代半ばから令和4年までの**20年間でほぼ半数にまで減少**している。ただし、**宮城県では平成20年代半ばから減少傾向が緩やか**である。
- ・仙台塩釜港ではプレジャーボートの隻数は減少に推移している一方で、近年では**放置艇対策による収容能力の増加**に伴い放置が大幅に減少し、**令和4年時点で放置艇率は10%まで減少**した。これにより、仙台塩釜港全体では、**収容能力が確認艇隻数を上回る**状況である。



資料:「小型船舶統計 年度末における在籍船隻数(都道府県別・用途別)」日本小型船舶検査機構

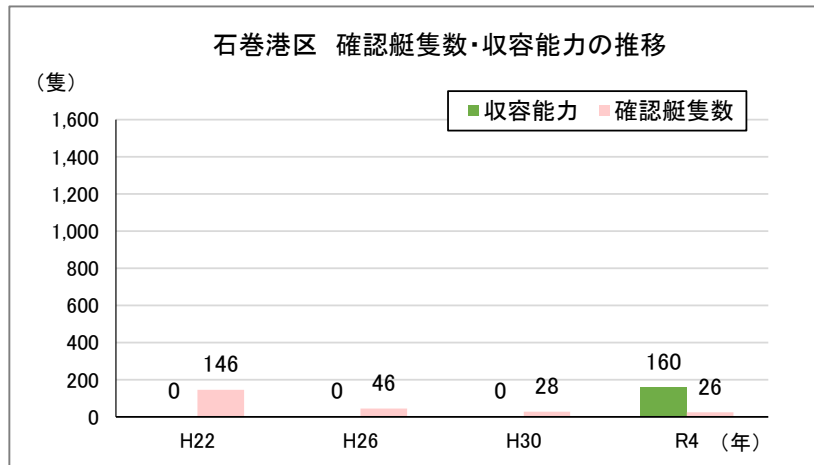
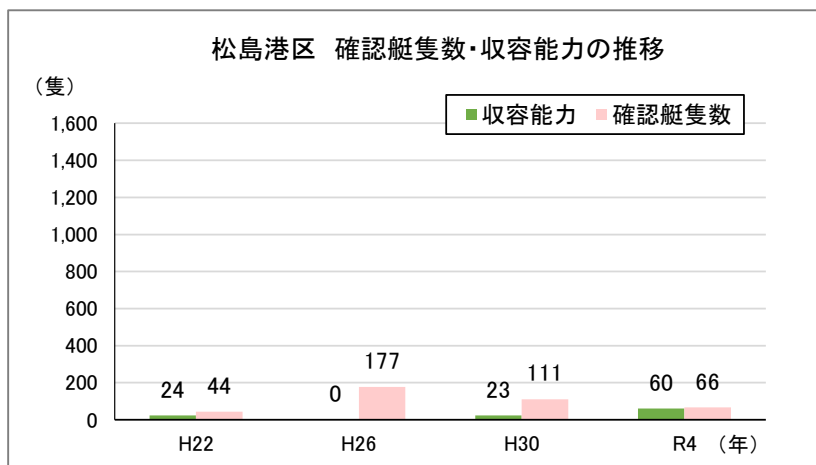
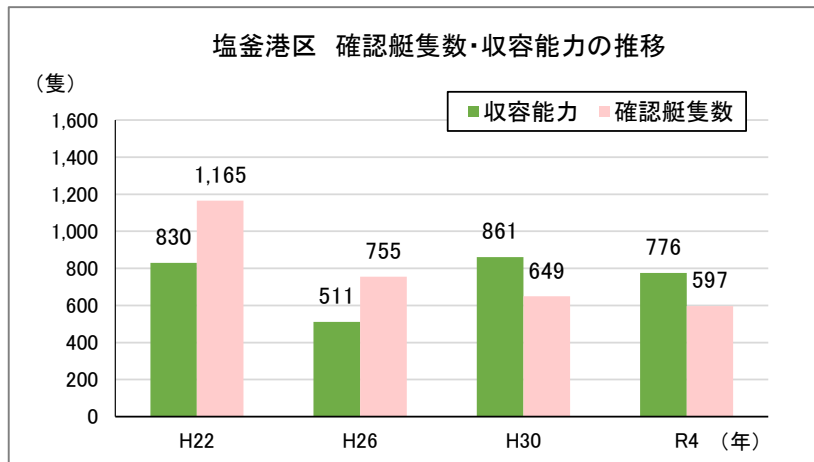
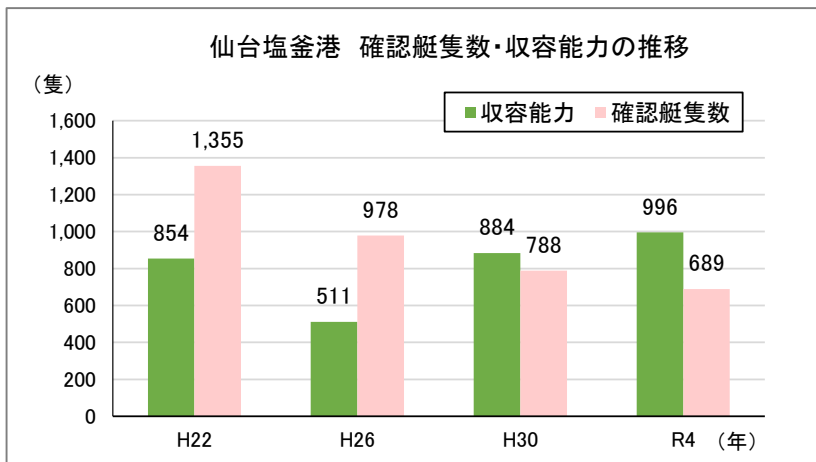


# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (2) マリンレジャーの動向

### ● 仙台塩釜港のプレジャーボート確認艇隻数と収容能力の推移

- ・仙台塩釜港全体では、**放置艇対策として収容能力が増加し、平成30年以降は収容能力が確認艇隻数を上回っている。**
- ・**松島港区では確認艇隻数に対して収容能力が下回っているため、収容能力の拡充検討が必要な状況**となっている。



資料:「係留・保管施設調査票/放置艇調査票」宮城県



# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (2) マリンレジャーの動向

### ●県内のマリンレジャー・アクティビティの実施状況

#### Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

・港湾区域および臨港地区では、仙台港区の釣り公園や、塩釜港区でのヨットやSUPなどの実績がある。

SUP



※松島観光協会HPより

シーカヤック



※ひがしまつしまじかんHPより

ヨット



※七ヶ浜町役場HPより

釣り

仙台港中央公園



# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (2) マリンレジャーの動向

### ●まとめ

Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

#### (マリンレジャーの市場動向)


- 国内のマリン事業（モーターボート・水上オートバイ・船外機）の市場規模は右肩上がりで推移。
- 世界・国内の水中アクティビティ（カヤック・スキューバダイビング・サーフィン等）の市場動向も成長予測。

#### (プレジャーボートの隻数・収容能力の推移)

- 全国・宮城県ともにプレジャーボートの隻数は減少傾向にあり、宮城県は東日本大震災により著しく減った後、緩やかな減少が続いている。
- 仙台塩釜港においては、全体隻数が減少しており、内訳として放置艇が減る一方で、許可艇が増加している。また、公共・民間施設をあわせた収容能力内に、プレジャーボート隻数が収まる状況等となっている。

#### (県内のマリンレジャー・アクティビティ)

- 港湾区域および臨港地区では、仙台港区の釣り公園や、塩釜港区でのヨットやSUPなどの実績がある。
- その他地域でもシーカヤックやヨットの利用状況がある。

 マリンレジャーの市場動向は右肩上がり一方で、プレジャーボートの隻数は緩やかな減少傾向にあり、放置艇は少なくなってきた。

人流増加を考える場合、マリンレジャーは一つの手法となる可能性が高いが、新規に導入していくには従来からの利用者との調整や、エリア分けなどが重要となる。

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (3) 憩い・集いの水辺空間 ~ 滞留時間の増加に向けて ~

Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

### ① ウォーターフロント

■ 人流増加に向けては、交流人口、定流人口ともに臨海部を訪れたいくなるような、「ここだけの魅力」が必要となる。

- ・物流機能の沖合展開に伴い、内港地区のマリーナやみなとオアシス、未利用地等を活用し、規制緩和等を進めることにより水域利用と一体となった臨海部空間の再開発を始め民間資金を活用した新たなビジネスを生む。また、訪日外国人旅行者だけでなく市民も交流を深めることのできる、賑わいや潤いのあるウォーターフロント空間を提供する。
- ・文化・歴史、ビーチスポーツ体験、景観、自然環境、魚食等、それぞれの地域の様々な観光資源を発掘・磨き上げ、快適な観光の提供等を通じて、訪日外国人旅行者の満足度向上、地域への経済効果の最大化を図る。

- ・港湾機能の再配置により、物流や賑わいなど港湾区間の価値を総合的に高め、訪れたいくなる「みなとまち」形成を図る。
- ・観光客が求める「本物」の観光資源を快適な環境とともに提供することで、訪日外国人旅行者の満足度向上、地域への経済効果の最大化を図る。
- ・「みなとまち」のブランド化を図り、民間資金の活用を促すことにより、臨海部への新たな投資需要を喚起する。



北浜緑地



※港湾の中長期政策「PORT2030」の概要（H30.7公表）より抜粋



※くろしお北浜マリンベースHPより

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (3) 憩い・集いの水辺空間 ~ 滞留時間の増加に向けて ~

Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

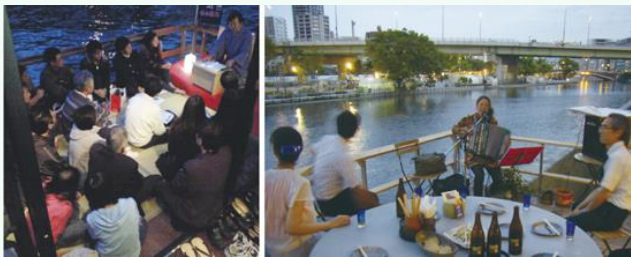
### ② 公共空間を活用したプレイスメイキング

#### 【プレイスメイキング】

・人々の多様なアクティビティの生まれる“プレイス”=“居場所”をつくることを目的とした都市生活を豊かにするための都市デザインの手法



▲ロンドン・キングスクロス駅の鉄道操車場跡地の再開発で創出されたりーゼンツ運河沿いの階段広場  
※「イギリスとアメリカの公共空間マネジメント: 公民連携の手法と事例 (坂井 文 著)」より



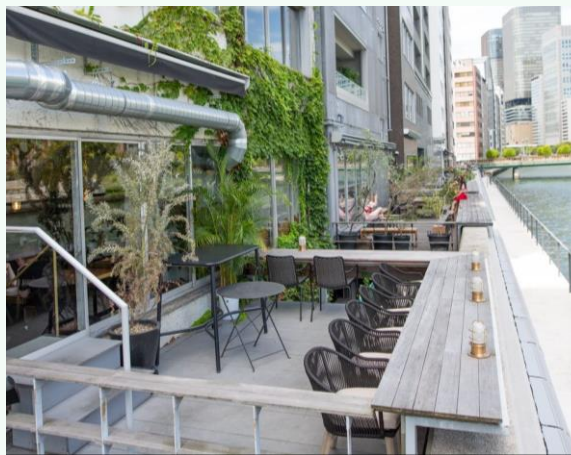
※北浜水辺協議会HPより

#### 大阪府 北浜テラス



KITAHAMA  
TERRACE  
大阪川床  
北浜テラス

※KITAHAMA TERACCE HPより



OPTIMUS CAFE(カフェ)

#### 【北浜テラス(大阪府)の取組】

・民間や半公的的性格をもつプロジェクト実行委員会が、河川管理者と協議しながら社会実験を行い、河川敷地に「河床(テラス)」を設け水辺の魅力を顕在化したプレイスメイキングの事例

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (3) 憩い・集いの水辺空間 ~ 滞留時間の増加に向けて ~

### 塩釜港区

#### ■ 塩竈市観光振興ビジョン(塩竈市)



4つの観光拠点

- ①「鹽竈神社と門前町地区」
- ②「バイエリアとマリ  
ンゲート地区」
- ③「市場地区」
- ④「浦戸諸島」

マリングート塩釜



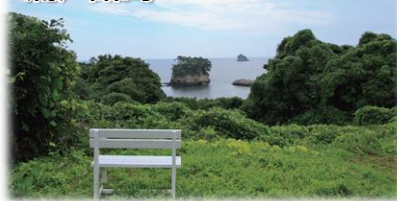
北浜緑地



市場地区



浦戸諸島



## ● 仙台塩釜港における取組

### Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

### 松島港区

#### ■ 松島交通社会実験(松島町交通社会実験協議会)

- ・令和4年度社会実験  
令和4年10月28日(金)～10月30日(日) (3日間)
- ・令和5年度社会実験  
令和5年10月14日(土)～10月15日(日) (2日間)





# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (3) 憩い・集いの水辺空間 ~ 滞留時間の増加に向けて ~

## ● 仙台塩釜港における取組

## Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

### 仙台港賑わい創出コンソーシアム(仙台港区)

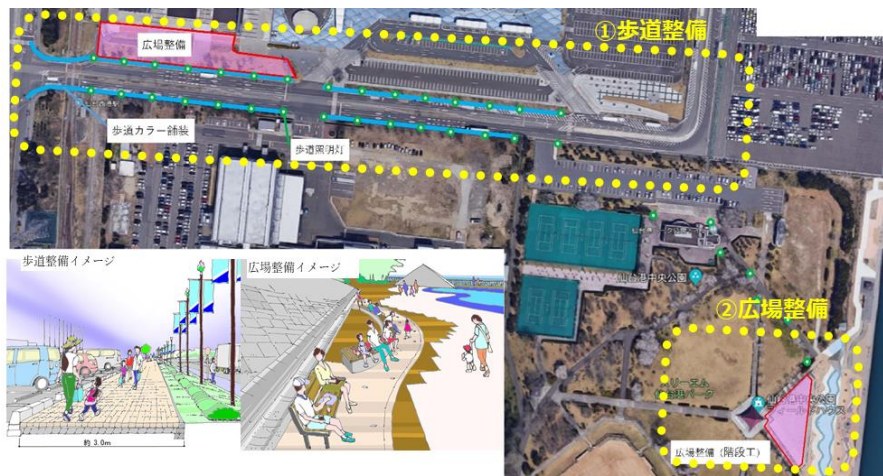
・仙台港周辺立地企業等がメンバーとなっている「仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム」により、仙台港周辺に人を呼び込むための取り組みとして、中央公園や中野緑地等の改良・修景が要望された。

・令和元年度より「仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム」の意見を徴収しながら設計を進め、令和2年度にハード整備が完了した。

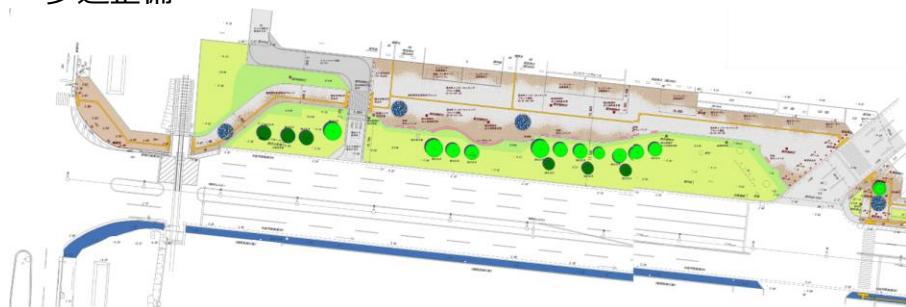
#### ■ 事業概要

・「エコのは」交差点からスリーエムパークまでの歩道の修景工事（カラー舗装と照明灯）とスリーエム仙台港パークの修景の設計を行う。

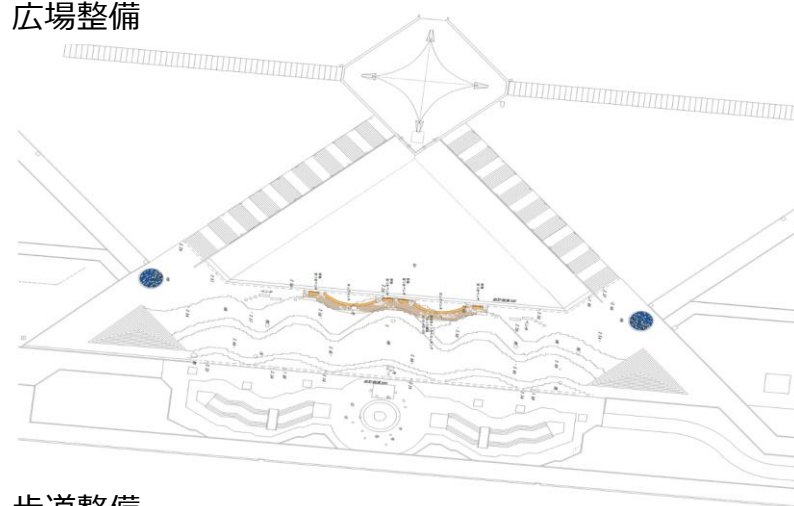
・歩道整備 A=2,517m<sup>2</sup>、歩道照明灯N=16基、緑地設計 一式、歩道緑地整備A=1,119m<sup>2</sup>、広場整備（中央公園）一式



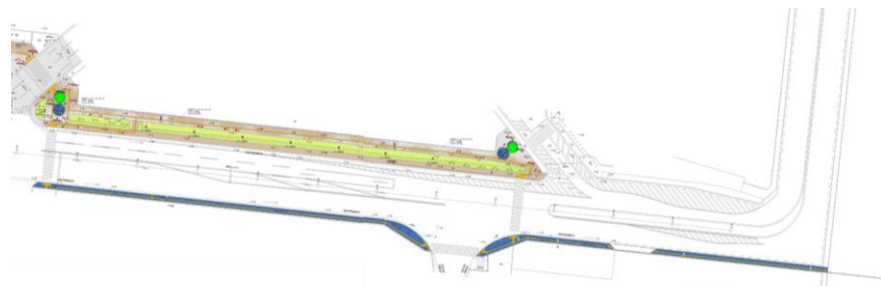
歩道整備



広場整備



歩道整備



# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (3) 憩い・集いの水辺空間 ~ 滞留時間の増加に向けて ~

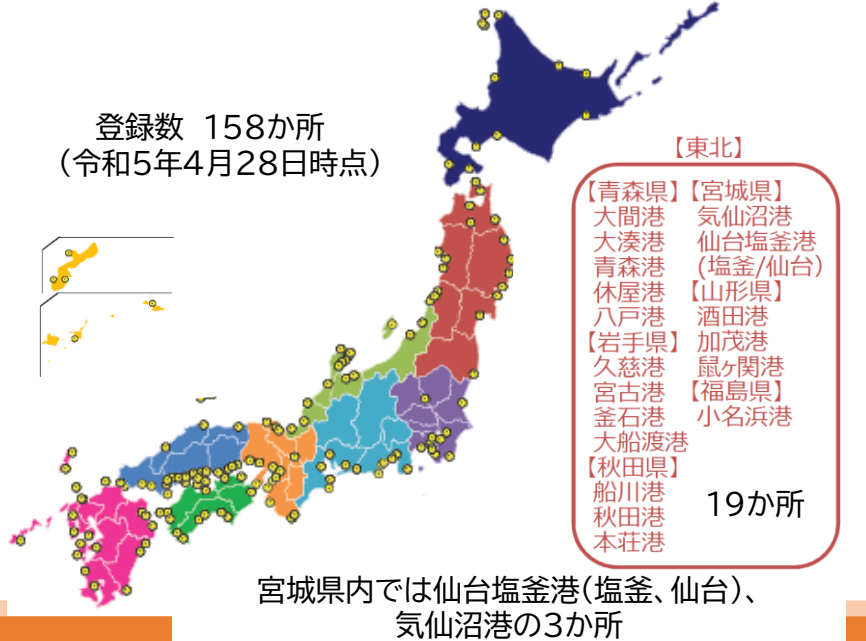
### ■ みなとオアシスとは

- ・地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、平成15年度に国土交通省港湾局が制度を設立
- ・住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が申請に基づき、みなとオアシスとして登録するもの

### ■ みなとオアシス担う役割

- ・地域住民、観光客、クルーズ旅客等の交流及び休憩
- ・地域の観光及び交通に関する情報提供
- ・その他（災害時の支援、商業機能など）

### ■ みなとオアシスの所在港湾の一覧



## ● 仙台塩釜港における取組

### ■ みなとオアシスマリンゲート塩釜

- ・平成17年7月に「みなとオアシスマリンゲート塩釜」として登録を受けた
- ・「みなとオアシスマリンゲート塩釜」は塩竈と松島を結ぶ観光遊覧船や、塩竈の離島である、浦戸諸島とを結ぶ市営汽船の発着所となっており、館内には、塩竈市や近隣地域の特産品を取り扱うお土産店や、寿司店などの飲食店がある



### ■ みなとオアシス仙台港

- ・仙台港周辺は、人々が憩い・集い・潤える空間として平成30年9月に「みなとオアシス仙台港」として登録を受けた
- ・「みなとオアシス仙台港」は「三井アウトレットパーク仙台港」や「仙台うみの杜水族館」など多種多様な13の施設で構成されている



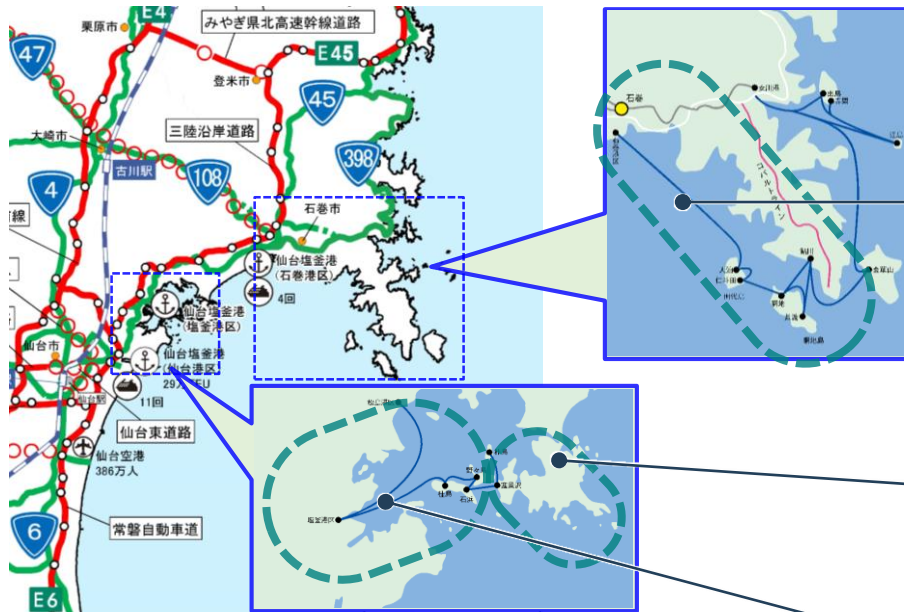
# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (4) 港区間の連携(海路・陸路ネットワーク)

### 海路ネットワーク

### Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

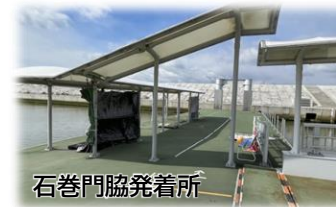
- ・港区間を陸路、航路で接続することにより、移動自体が訪れる目的になったり、滞留時間の増加につながる要素がある。
- ・仙台塩釜港内には、塩釜港区と松島港区を結ぶ定期観光航路や離島航路、石巻港区の網地島ラインのほか、奥松島の遊覧船などの海路ネットワークが形成されている。船舶乗降人員は、新型コロナウイルス感染症拡大により一時減少したものの、回復傾向にある。



#### ■石巻港区(内港地区)

##### 網地島ライン

旅客船・カーフェリー(石巻～田代島・網地島・鮎川)



石巻門脇発着所



石巻中央発着所

#### 【東松島市宮戸島 奥松島遊覧船】



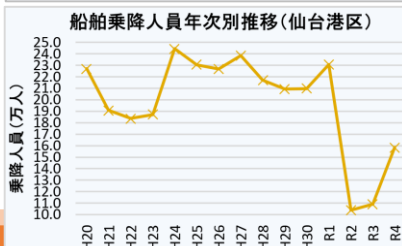
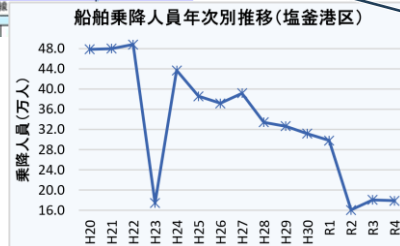
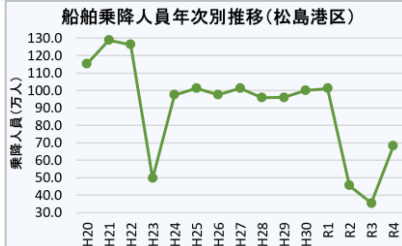
奥松島観光棧橋



復興再生多目的施設「あおみな」

#### ■塩釜港区・松島港区 観光遊覧船(塩釜～松島航路・離島巡り)

丸文松島汽船	芭蕉コース(松島～塩釜) / 松島湾周遊政宗コース(松島～松島)
塩竈市営汽船	浦戸諸島島巡り(塩釜～桂島～野々島～石浜～寒風沢～朴島)
松島島巡り観光船	松島湾周遊コース(松島～松島)



西埠頭 観光棧橋

塩釜港区

マリゲート塩釜



松島観光棧橋

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (4) 港区間の連携(海路・陸路ネットワーク)

### 陸路ネットワーク

・仙台塩釜港周辺には、「みちのく潮風トレイル」による徒歩旅行や「震災復興・伝承みやぎルート」によるサイクリングツーリズムを楽しむ環境が整備されている。



### みちのく潮風トレイル ～東北の新しい道～

#### 【仙台塩釜港背後地域ルート】

- ① 石巻市(市街地)～東松島市～塩竈市(浦戸諸島)ルート
- ② 塩竈市(市街地)～多賀城市～仙台市ルート
- ③ 石巻市牡鹿半島南部ルート



## Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

### みやぎのサイクリングルート 「震災復興・伝承みやぎルート」を決定しました

**ルート概要** 沿岸地域における漁業・海産物等の魅力を活かしつつ、東日本大震災の遺構や伝承施設等を巡るルート (宮城県沿岸地域 基幹ルート：約 280 km、アクセスルートは主要な交通機関や景勝地と基幹ルートを結ぶルート：約 90 km)

#### 南三陸～気仙沼エリア

気仙沼駅、道の駅大谷海岸、道の駅大谷海岸、道の駅大谷海岸

#### 東松島～石巻エリア

道の駅津山、道の駅津山、道の駅津山

#### 塩竈～松島エリア

塩竈市津波防災センター、仙台市立荒浜小学校

#### 岩沼～仙台エリア

岩沼市津波防災センター、仙台市立荒浜小学校

#### ■サイクリステーション

ルート上の一定間隔でサイクリストがいつでも休憩できるような環境整備を進める予定です。  
トイレの利用 / 空気入れの貸出し / 水分補給 / 休憩スペース / 設備 / サイクルラック / サイクリングに必要な情報発信等  
◀サイクリステーション整備 かわまちまち環上

#### ■ゲートウェイ

ルート上の起終点の施設では、利用者の快適で安心な利用をサポートするための機能が利用可能となるよう整備を進める予定です。  
レンタサイクルやシェアサイクルの利用 / サイクリングに必要な荷荷発信 / 必要な物品や食料の販売 / 手荷物用ロッカー / 着替えのスペースなどの整備等  
▲ゲートウェイ整備 やまもと駅にこの機能


※宮城県サイクルツーリズム推進協議会 (国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所) Webサイトより抜粋

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (3) 憩い・集いの水辺空間 ~滞留時間の増加に向けて~

### ●まとめ

- 人にとって「水辺であること」がひとつの『魅力』となりえる。「ここだけの…」といった個性は、更に魅力を際立たせる。
- ウォーターフロント、プレイスメイキングの紹介は、「交流人口」「定住人口」双方を対象としており、官民協同で取り組むことで可能性が広がる余地がある。
- 人流の増加や滞留時間の増加は、商業地にとっては経済的なメリットを生み出す可能性が高まり、地域にとっては活性化や地域交流が期待される。
- 滞留しやすい環境をつくるためには、休憩施設（椅子やベンチ、日陰など）がある、飲食ができる、空間がある（広場など他者との空間を確保できるスペース）、治安が良いなど、複数の条件を満たす必要がある。

 **アフターコロナで観光需要・インバウンドの回復予測がされる中、人流の増加や滞留時間の増加は地域にとって今後より重要になっていくと思われる。**

## (4) 港区間の連携(海路・陸路ネットワーク)

### ●まとめ

- 仙台塩釜港の4港区は成り立ちや特徴が異なっており個性があるため、港区間における航路や陸路での移動は、それ自体が訪れる目的となる可能性がある。
- 船舶乗降人員は、新型コロナウイルス感染症拡大により一時減少したものの、回復傾向にある。
- 船に乗ることは、多くの人にとって日常からの乖離や旅情を感じさせる力があり、定期観光船の新規ルートが増えるなど、選択肢が増えることで、新たな魅力を生み出す可能性がある。
- 東日本大震災後に太平洋沿岸を陸路で移動するプランが増えてきている。徒歩やサイクリングは移動の際に人や自然に触れ合える機会が多く、訪問者にとって特別な印象や情景が残る場合がある。
- 内陸部や港湾以外の臨海部と港湾がシームレスな繋がりを持つことで、港区間の連携が促進される可能性がある。

 **港区間の連携については、今後の新たな魅力になりえる可能性がある。**

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (5) 将来を担う大学生からの意見

### Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

#### 学生ワークショップによる意見

##### 「仙台塩釜港のグランドデザインについて」

目的：将来を担う若い世代より、将来の臨港地区の「人流」増加にむけて利用者目線からの自由な発想や意見を求めるもの。

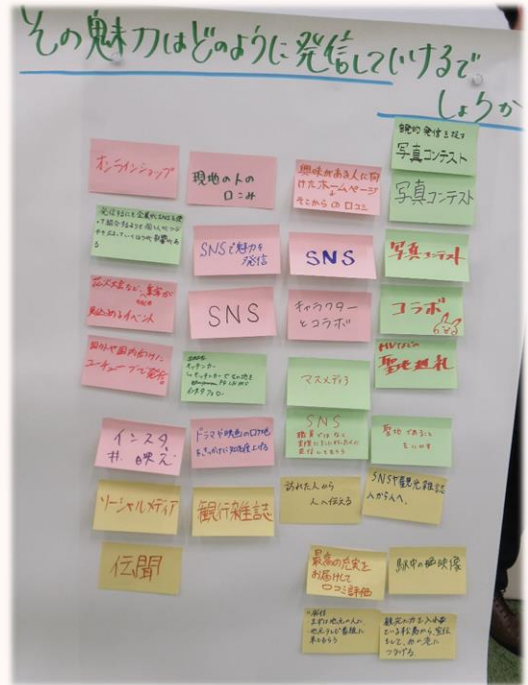
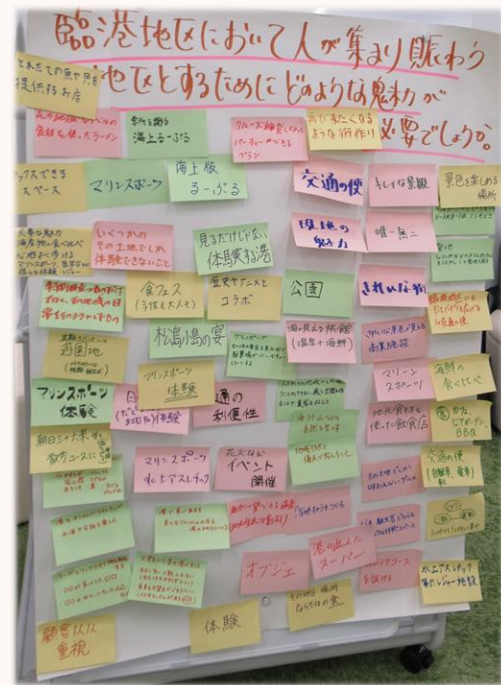
開催日：令和5年8月3日（木）10:45～12:15（90分）

対象：東北学院大学 学生22名

テーマ：水辺を活用しながら人が集まり賑わう臨港地区とするためには、どのような魅力が必要か、その魅力をどのように発信すべきか。



ワークショップの風景



# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (5) 将来を担う大学生からの意見

Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

**問) 臨港地区において人が賑わう地区にするためにどのような魅力が必要か。**

大学生によるワークショップを開催しました。当日の意見をまとめたものは以下のとおりです。

### 9 個 の 魅 力 (1/2)

#### ① 食 (その土地の食材を生かす)

- ・ 食べ歩きシステム  
(食べ歩きできるスペースを設ける)
- ・ 海鮮物の食べ比べ
- ・ わんこ海鮮 (わんこそばの海鮮版)
- ・ その土地でしか味わえないグルメ
- ・ バーベキュー (貸し出し・食材持参)
- ・ ビアガーデン
- ・ 食フェス (その土地の名物など)
- ・ カフェ (おしゃれな休憩スペース)
- ・ とれたての魚介を提供するお店
- ・ その土地の食材を使ったラーメン

#### ② 作品 (漫画やアニメなどの舞台になった地を観光)

- ・ 作品とリンクさせてグッズの販売
- ・ 聖地巡礼 (作品の舞台地を観光)
- ・ コスプレ衣装  
(特定のキャラクターに扮装すること)

#### ③ 体験 (日本文化を体験)

- ・ 着物やお抹茶を観光地で体験する
- ・ 見るだけじゃない体験する港  
(クルーズ船に乗るなど)
- ・ ネガティブ流し  
(消極的・否定的に思う事を  
灯籠流しのように海に流す。)

文化

・ 地域ならではの食べ物を、他地域や海外の方に広める。

・ 日本の作品や日本の伝統文化を幅広く知ってもらう。

#### ④ 景色 (日常をそのまま)

- ・ 展望台 (小人数)
- ・ 海を一望できる温泉
- ・ 港をライトアップ
- ・ 自然を生かした景色
- ・ 朝日三十六景等を散歩  
(散歩しながら朝日が見れる)

#### ⑤ 癒し (港の静けさで癒しの空間を)

- ・ 住民と観光客が使用できる休憩スペース
- ・ グランピング施設  
(テントの設営や準備が不要のキャンプ)
- ・ お酒や会話を楽しめる空間
- ・ 海の見える旅館

自然  
(日常)

現地の魅力をそのままに、港の静かな空間で癒しを得られる日常の魅力を生かした工夫が必要。

# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (5) 将来を担う大学生からの意見

Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

**問) 臨港地区において人が賑わう地区にするためにどのような魅力が必要か。**

大学生によるワークショップを開催しました。当日の意見をまとめたものは以下のとおりです。

### 9 個 の 魅 力 (2/2)

#### ⑥ 交通 (利便性を重視)

- ・ 利便性
- ・ 伊達バイクの設置

#### ⑦ 地域 (地域を盛り上げる)

- ・ ご当地キャラクター
- ・ 港の近くにスーパー
- ・ 再び訪れたいくなる地域
- ・ 地域住民を優先で考える
- ・ オブジェ (地域をイメージしたオブジェ)

#### ⑧ 運動 (スポーツを身近に)

- ・ マリンスポーツ  
(サーフィンやカヌーなどの海上または海中で行われるスポーツ)
- ・ 水上アスレチック  
(空気が入った大きな浮島を移動していくウォーターアトラクション。  
浮島の途中で滑り台やブランコなどのアトラクションが設置されている。)
- ・ 公園 (健康遊具などで体を動かす)
- ・ ランニングコースを設ける

暮らし

地域に住む人々が不便なく暮らせる地域を目指し、その地域に住みたくなくなるような街を作る必要がある。

#### ⑨ 観光 (海の上を走る)

- ・ 要所を回る海上版るーぷる  
(るーぷる仙台 (仙台市内の観光スポットを循環する「シティーループバス」)  
の船版をイメージ)
- ・ 松島小島の宴 (松島の小島を貸し切りにし、宴会を開く)

観光

観光地を発展させるため、観光客の目を引く新しいものを作る。



# Ⅲ. 臨港地区での人流増加に向けた取り組みについて

## (5) 将来を担う大学生からの意見

Ⅲ-3 観光交流分野の現状と動向

### 問) 臨港地区において人が賑わう地区にするためにどのような魅力が必要か。

大学生によるワークショップを開催しました。当日の意見をまとめたものは以下のとおりです。

### 9 個の魅力を発信する方法

#### ◎ SNS (ソーシャルネットワークサービス) の活用

- ・ **YouTube** (動画を投稿・閲覧できる。)
- ・ **X(旧Twitter)** (140文字以内で自身の近況などを発信)
- ・ **Instagram** (自身の写真・動画を投稿)
- ・ **TikTok** (ショート動画の投稿・閲覧)

ミヤギのドボク  
\_宮城県土木部  
公式Instagram

テレビや雑誌、新聞などから情報を得ている学生は少なく、ほとんどの学生がSNSから情報を得ている。



【SNSとは】登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービス。(海外にも発信可能)

#### [SNSの発信者]

- **県や市で運営するのではなく、地域に訪れた一般の方や、地域に暮らす方々が情報を発信する。**  
→ 一般の方の方が現実さが増し、現地の魅力が伝わりやすい。
- **登録者の多い情報発信者に情報の発信を依頼する。**

#### [SNSの発信内容]

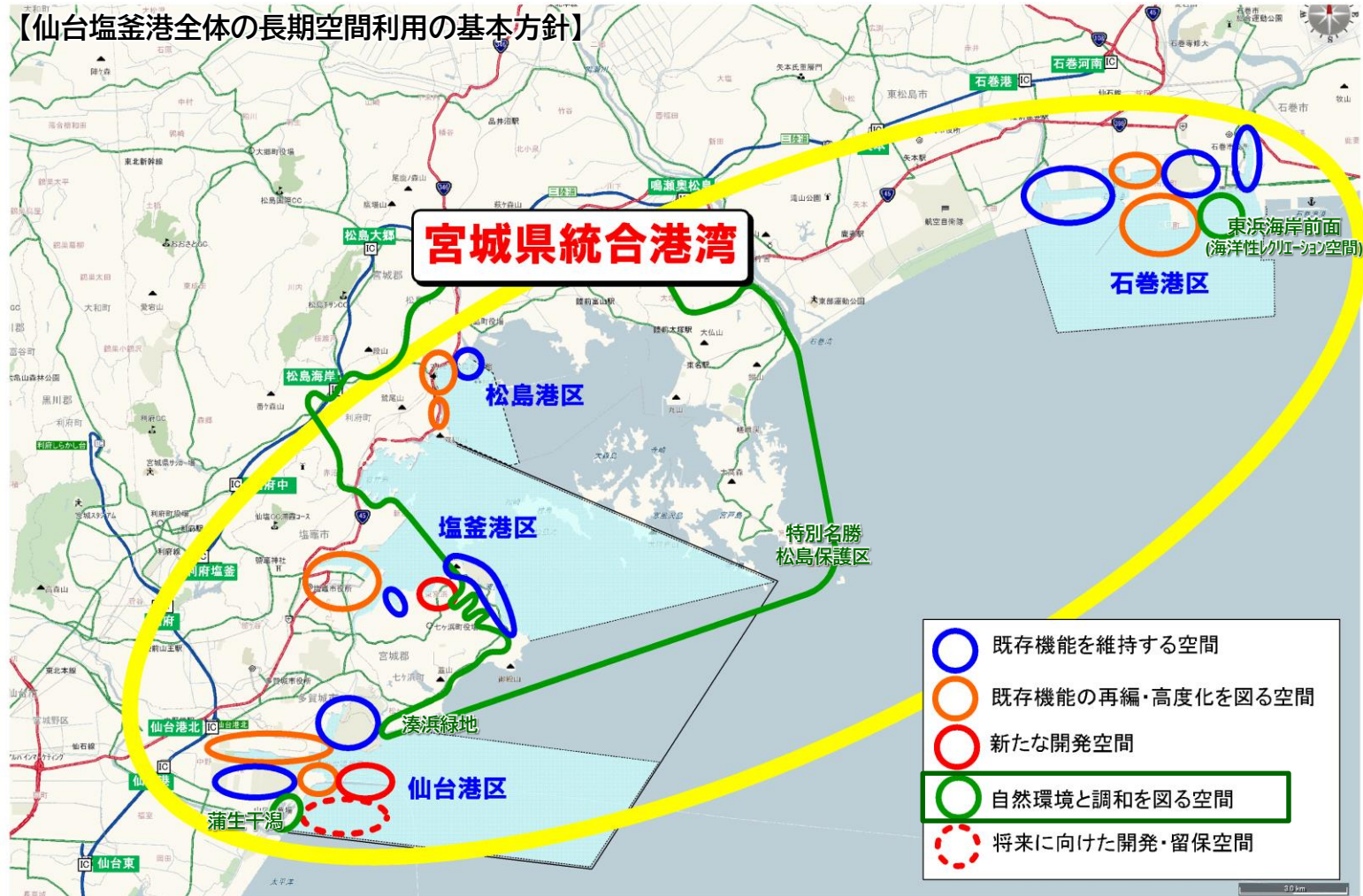
- **イベント** (集客が見込めるイベント)
  - ・ 花火大会
  - ・ 写真コンテスト  
→ 例) 地域の景色を写真に収め、優勝者には、名産物や会場地域で使えるクーポンの配布を行う。
  - ・ ご当地キャラクターとの共演
- **聖地巡礼** (作品の舞台地を観光)
  - ・ MV (ミュージックビデオ) などの聖地巡礼
  - ・ ドラマや映画のロケ地観光  
→ 聖地やロケ地をきっかけに知名度UP

#### [SNS 以外の発信方法]

- **ご当地キャラクターで地域をPR**  
→ キャラクターデザインを市民の方から募集。  
例) ずんだ仙人 など。
- **キッチンカーを活用**  
→ 例) キッチンカーの運営するSNSを登録すると注文時に10%割引される、など。キッチンカーの情報発信が、地元情報の発信に繋がる。(地元の食に関するメニューを扱うキッチンカー等を想定)

# IV. 海域環境の保全について

- ・現行長期構想（H24年8月策定）では、仙台塩釜港の長期空間利用の基本方針として、「**自然環境と調和を図る空間**」が、**蒲生干潟や湊浜海浜緑地、塩釜～松島・奥松島（特別名勝松島保護区）、石巻港区東浜海岸前面水域にゾーニング**されている。
- ・また、H25.6港湾計画改訂で位置づけた整備計画に対しては、現況調査結果をもとに、環境影響評価法に準じて、周辺環境に影響を及ぼすと想定される大気質、潮流・水質、生物・生態系などの各項目に対して予測と評価を実施した結果、**影響は「軽微」**であると評価としたところである。
- ・これからの仙台塩釜港の持続可能な発展を図るためには、**自然と共存できる環境づくり**、陸域を含めた**自然環境の保全**が不可欠と考えられる。





# V. 「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会」について

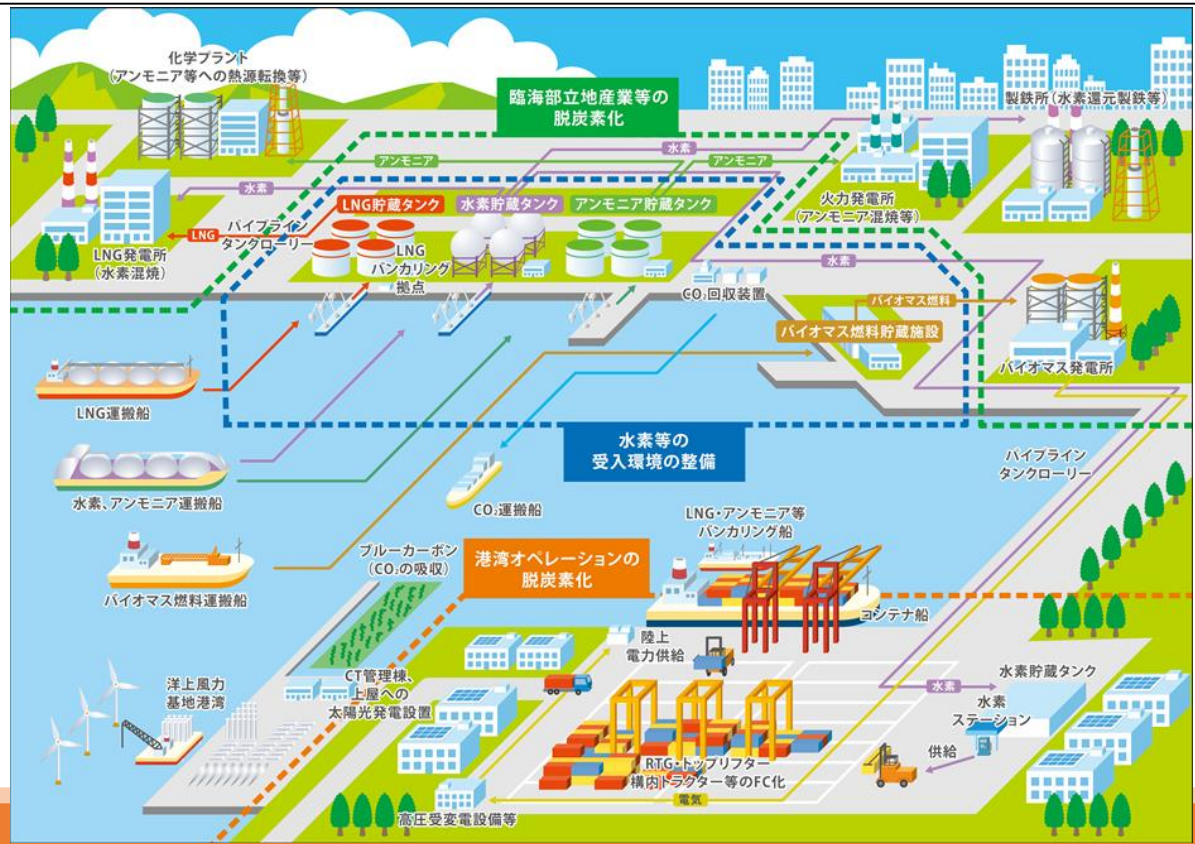
## ■ 【背景】

- ・政府は、令和2年10月に『2050年カーボンニュートラル』宣言。  
令和3年6月に『2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略実行計画』を閣議決定。
- ・港湾は、輸出入貨物の99.6%が経路する国際サプライチェーンの拠点であり、CO2排出量の約6割を占める産業の多くが臨海部に立地している。 ⇒港湾地域における脱炭素の先導的な取組が効果的。

## ■ 【カーボンニュートラルポート（CNP）】

- ・港湾において、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを指すもの。
- ・令和4年12月の改正港湾法により、港湾管理者は官民連携による「港湾脱炭素化推進計画」を作成できることとなった。
- ・このため県では、仙台塩釜港においてCNP形成に向けた具体的な検討を進めるため、学識経験者や港湾立地企業、国、市町等を構成員とする協議会を令和4年6月に立ち上げ検討を進めている。
- ・仙台塩釜港は、2013年度を基準とし、2030年度に50%削減、2050年に100%削減を目指している。

## カーボンニュートラルポート（CNP）の形成のイメージ



(出典)  
国土交通省港湾局カーボンニュートラルの形成より

[https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan\\_tk4\\_000054.html](https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_tk4_000054.html)

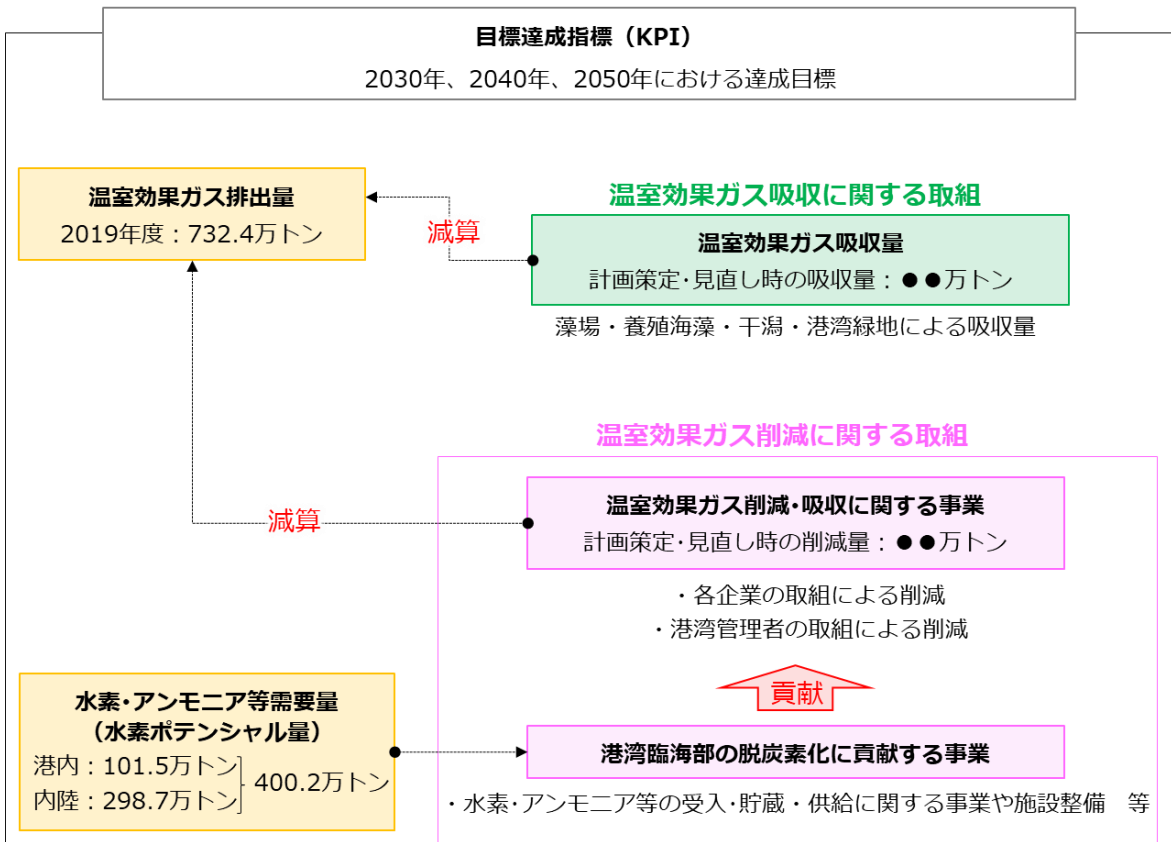
# V. 「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会」について

## ■ 【港湾脱炭素化推進計画】

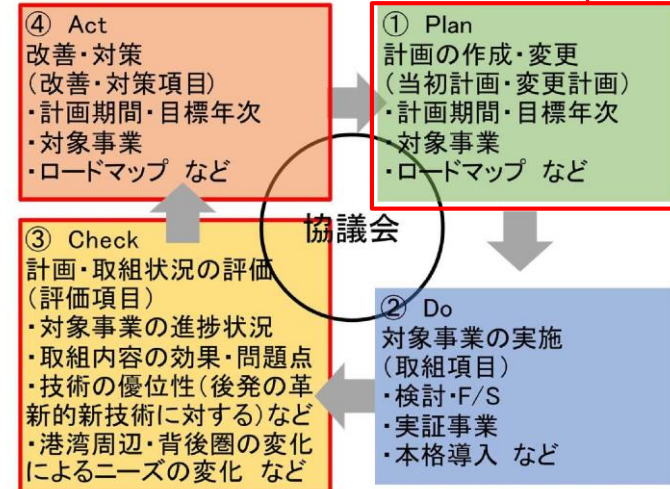
- ・港湾における温室効果ガスの削減に関する取組や、現在の化石燃料に替わる、水素・アンモニア等の脱炭素燃料の受入・貯蔵・供給に関する取組及び施設整備、今後のロードマップ等を示した「港湾脱炭素化推進計画」を作成し、仙台塩釜港の脱炭素化に向けた取組を推進するもの。
- ・これまで協議会を4回開催しており、今年度内の計画策定に向けて検討を進めている。
- ・計画策定後においても、PDCAサイクルにより進捗状況の評価・改善を実施し、必要に応じて計画の見直しを行いながら計画の推進を図る。

### 仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画

初版の計画を作成中



### PDCAサイクルイメージ



動きの速い分野であるため、技術、市場、法令の変化に対応するために③計画・取組状況の評価、④CNP形成計画の改訂が肝要となる。

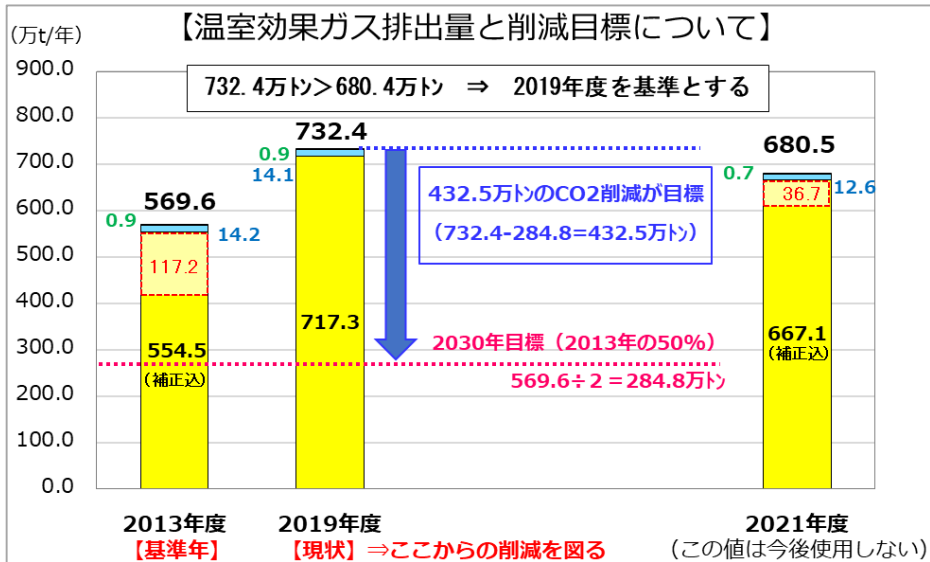
出典：「港湾脱炭素化推進計画」作成マニュアル2023年3月  
国土交通省 港湾局 産業港湾課

### 次回第5回協議会での検討内容

- ⇒同協議会にて計画(素案)を提示
- ⇒パブリックコメントを経て年度内の計画策定を予定

第4回協議会までの検討内容

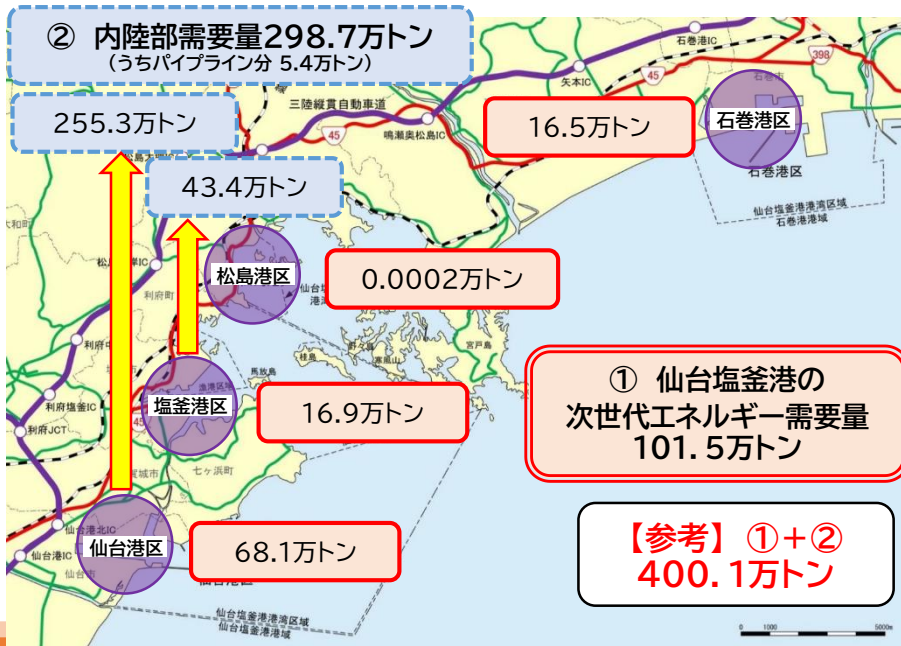
# V. 「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会」について



## 【温室効果ガス削減・吸収に関する事業 (案)】

時期	区分	事業名
短期 (~2030年)	ターミナル内	ハイブリッド式ストラドルキャリアの導入
		低炭素型荷役機械の導入
		照明設備の省エネ化(LED化)
	ターミナル出入車両・船舶	低炭素燃料船の導入
		低炭素型車両の導入
	ターミナル外	操業体制見直しによる生産効率化等 製鋼工場及び製品倉庫の照明LED化 電気炉の省電力化改造 高効率コンプレッサーへの更新 設備に使用する燃料の低炭素化
中期 (~2040年)	ターミナル内	低炭素型荷役機械の導入
		ガントリークレーンの省エネ化
		低炭素型RTGの導入
	ターミナル出入車両・船舶	低炭素型車両の導入
		船舶への陸上電力供給 高砂CTIにおける輸送効率化(CONPASの導入)
	ターミナル外	設備の燃料転換(A重油⇒LNG)
長期 (~2050年)	ターミナル外	ブルーカーボン(藻場)の造成
		LNG火力発電所における燃料転換(混焼・専焼)

## 【水素需要ポテンシャル量】



## 【港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業】

プロジェクト	施設の名称 (事業名)	位置	規模	実施主体	実施期間	事業の効果※	備考
中期	再エネ由来水素生産・供給PJ	再エネ由来水素の製造 (実証)	〇〇地区 生産能力 〇Nm3/h	〇〇風力発電 〇〇ガス勝	2027年度~ 2030年度	水素供給量: 〇Nm3/年	
		再エネ由来水素ST	〇〇地区 供給能力 〇Nm3/h	〇〇ガス勝	2029年度~ 2030年度	水素供給量: 〇Nm3/年	
長期		港湾内の風力発電による水素生産	〇〇港内 未定	〇〇ふ頭勝、 〇〇風力発電勝	2030年度~ 2032年度	未定	
中期	アンモニアの受入・供給PJ	岸壁等の施設改良	〇〇ふ頭 老朽化対策延長 (〇m)	〇〇県 (港湾管理者)	2028年度~ 2030年度	アンモニア供給量: 〇〇トン/年 (〇〇Nm3/年)	
		既存LPGタンク改修	〇〇地区 タンク〇基 (容量〇m3)	〇〇石油勝	2028年度~ 2030年度		
長期		アンモニア輸入・貯蔵・供給事業	〇〇地区 未定	〇〇海運勝、 〇〇商勝	2030年度~		
中期	液化水素の受入・水素供給PJ	岸壁等の施設改良	〇〇ふ頭 老朽化対策延長 (〇m)	〇〇県 (港湾管理者)	2027年度~ 2029年度	水素供給量: 〇〇トン/年 (〇〇Nm3/年)	
		液化水素ローディングアームの整備	〇〇ふ頭 能力 〇m3/h	〇〇合同会社	2029年度~ 2030年度		
		液化水素タンク整備	〇〇地区 タンク〇基程度 (容量〇m3)	〇〇合同会社	2028年度~ 2030年度		
長期		液化水素輸入・貯蔵・水素供給事業	〇〇地区 未定	〇〇合同会社	2030年度~		
		大型トラック向け水素ST	〇〇地区 未定	〇〇エネルギー勝	2030年度~	未定	

出典: 「港湾脱炭素化推進計画」作成マニュアル

港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業の記載例

## VI. 次回開催について

次回以降の進め方は次のとおりとし、第4回は11月開催予定、第5回は令和6年2月の開催予定とする。

- ・論点5「観光・交流」については、今回の意見交換を踏まえ、課題を整理する。
- ・論点3「環境」のうち、カーボンニュートラルへの取組については、「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画」の内容を反映するものとする。
- ・論点1～6の整理した課題について、今後の方向性案を提示する。

### 仙台塩釜港の課題抽出のための論点6項目

1)

モーダルシフトの進展など物流の変化を見据えた東北・宮城の港湾取扱貨物の増加に向けた取組

2)

人口減少社会における労働者不足に対応する業務効率化・生産性向上にかかるDX等の取組

3)

脱炭素社会の実現に向けた港湾におけるカーボンニュートラルへの取組

4)

東北・宮城のポテンシャルを踏まえた輸出の拡大・促進に向けた取組

5)

ウィズコロナ・アフターコロナに向けた観光振興・交流人口の拡大への取組

6)

他港を含む大規模災害の発生を見据えた防災・減災対策や、BCPに向けた取組